

関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした  
生態系ネットワーク形成基本計画  
中間評価  
【本編】(案)

R7(2025)年  
関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会

# 目次

1.	中期目標と目標実現に向けた体制等の概要	1
1-1	「中期目標」の概要	2
1-2	中期目標実現のための取組プログラム	7
1-3	取組の推進体制	10
1-4	取組の推進期間	12
2.	中間評価の実施方法	14
2-1	「中間評価」の位置づけ	15
2-2	「中間評価」の方法	16
2-3	中間評価に係る「取組進捗指標」	17
3.	目標達成に向けたプログラムの取組実施状況	18
3-1	取組の推進に係る枠組みづくりと運用(共通事項)	19
3-2	コウノトリ飼育・放鳥条件整備(たね地づくり)	20
3-3	コウノトリ生息環境整備・推進(定着地づくり)	22
3-4	コウノトリ地域振興・経済活性化(人・地域づくり)	24
4.	中期目標の取組進捗状況の評価	26
4-1	取組進捗指標による評価	27
4-2	関東エコ・ネット関係者による評価	38
4-3	コウノトリの定着から見た取組の寄与について	53
5.	2030年に向けた取組課題と方針(案)	59

## 【資料編】 ※別冊

参考1:取組進捗指標ごとの評価データ等

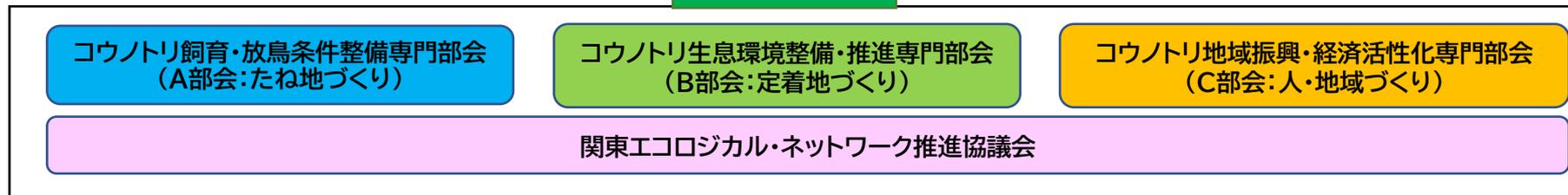
参考2:進捗評価アンケートの評価理由・課題(記述詳細)

# 1. 中期目標と目標実現に向けた体制等の概要

# 1-1 「中期目標」の概要

「中期目標」は、『基本計画』に位置付けられた重点プログラムを中心とした取組を、推進協議会や3つの専門部会のもとで検討・協議を行い、連携・情報共有をはかりながら進めることにより、**2030年まで**に実現することをめざす目標として設定した。

I. コウノトリの個体群形成と個体群間の交流	II. 流域が一体となった湿地環境等の改善・創出	III. 様々な主体の賑わいによる魅力ある人・地域づくり	IV. 個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成
			
<p>コウノトリの関東地域個体群の形成が進むとともに、コウノトリをシンボルとする国内各流域のエコネット事業地間から東アジアに至る個体群間の交流がはじまっている。</p>	<p>コウノトリやトキの関東地域個体群が自活して繁殖・生息が可能となる湿地環境等の改善や創出が、堤外・堤内における関連主体の役割分担に応じ流域一体で進められており、河川と水田がつながることで淡水魚があふれている。</p>	<p>コウノトリ・トキと共にくらせる地域を誇りとし、地域経済及び社会を構成する様々な主体の賑わいによる、持続可能で魅力ある地域づくりが進められている。</p>	<p>グリーンインフラの概念による流域治水の取組が主流化し、コウノトリ・トキのほかにも関東各エリアの地域特性に基づく指標種を加味した、個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成が促進されている。</p>



## 1-1 「中期目標」の概要

### (1) 中期目標 I : コウノトリの個体群形成と個体群間の交流

中期目標	具体イメージ
 <p>コウノトリの関東地域個体群の形成が進むとともに、コウノトリをシンボルとする国内各流域のエコネット事業地間から東アジアに至る個体群間の交流がはじまっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>i. 2020年時点で、関東中央部の利根川沿い3か所に形成された「コウノトリ溜まり」が、荒川流域や相模川流域等、関東各地の河川流域に広がると共に繁殖地も徐々に増加し、関東地域の繁殖地間からコウノトリをシンボルとする国内各流域のエコネット事業地間の個体群との移動・交流が確認されている。さらに、大陸レベルの韓国や中国・ロシアなど東アジア個体群との個体交流がはじまっている。</li><li>ii. 関東広域で共通するコウノトリの救護・事故防止対策(人的要因による)について、各県をはじめ国・市町村・関連機関・企業・民間団体等の連携・協働による広域的な情報共有や一元的対応の仕組みの構築が進み、流域エリアごとの対応が円滑かつ効果的に進められている。</li><li>iii. コウノトリ野生復帰の取組みと、その生物多様性や地域づくりへの意義などが、一般市民にも浸透し、主要な水辺拠点で観察されるコウノトリの存在が「当たり前」になりつつある。</li><li>iv. 当面のシンボルとして掲げていたコウノトリを対象とした取組みの実績・成果を踏まえ、佐渡から全国へ広がる「トキ」の野生復帰を実現する取組みが、関東でも進展している。</li></ul>

## 1-1 「中期目標」の概要

### (2) 中期目標Ⅱ：流域一体となった湿地環境等の改善・創出

中期目標	具体イメージ
 <p>コウノトリやトキの関東地域個体群が自活して繁殖・生息が可能となる湿地環境等の改善・創出が、堤外・堤内における関連主体の役割分担に応じ流域一体で進められており、河川と水田がつながることで淡水魚があふれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>i. 「流域治水プロジェクト」や「緊急治水対策プロジェクト」による防災・減災対策と、エコロジカル・ネットワークによる湿地整備が一体的に推進され、コウノトリやトキが繁殖・生息可能となる湿地環境等が実装された治水事業等が、河川区域(堤外地)と流域(堤内地)のそれぞれに相応しい事業主体の役割分担に基づいて、関東の各流域で進められている。</li><li>ii. 渡良瀬遊水地でのコウノトリ繁殖実現要因の分析結果から、「関東広域推進モデル」(*)が構築され、コウノトリやトキの生息ポテンシャルの高いエリアと治水事業優先地区との整合を踏まえた湿地整備への適用方策が効果をあげている。</li></ul>

## 1-1 「中期目標」の概要

### (3) 中期目標Ⅲ:様々な主体の賑わいによる魅力ある人・地域づくり

中期目標	具体イメージ
 <p>コウノトリ・トキと共にくらせる地域を誇りとし、地域経済及び社会を構成する様々な主体の賑わいによる、持続可能で魅力ある地域づくりが進められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>i. コウノトリ・トキと共にくらせる地域への誇りが醸成され、コウノトリ・トキ等の指標種をテーマとした学習や各種活動が、持続可能な社会の実現に向けた2030年世界目標(SDGs)の達成も踏まえて、官民連携のもとで展開されている。</li><li>ii. 各流域エリアにおいて、コウノトリ・トキ等をシンボルとした付加価値創出や、多様な主体の連携・協働による農業や観光などの環境貢献型産業が活発に展開されるとともに、防災や環境づくりを地域住民が主導するグリーンコミュニティの構築が各地で進められている。</li></ul>

## 1-1 「中期目標」の概要

### (4) 中期目標Ⅳ:個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成

中期目標	具体イメージ
 <p>グリーンインフラの概念による流域治水の取組が主流化し、コウノトリ・トキのほかにも関東各エリアの地域特性に基づく指標種を加味した、個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成が促進されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>i. コウノトリをはじめとする多種多様な水辺の生きものがくらせる湿地環境の再生・創出・ネットワーク形成を進める共通認識が浸透し、治水を目的とする河道掘削や調整池・ため池・田んぼダム等の流域治水事業においても、生物の生息環境改善も目的として位置付け実施される技術手法が一般化し、各地でネットワーク化が促進されている。</li><li>ii. コウノトリ・トキのほか、地域特性に応じた指標・シンボル種が各エリアで設立されている協議会ごとに選定され、地域らしさを活かした流域アクションプラン等の作成に基づき、参画セクターの協働による計画的・主体的な取組が展開されている。</li></ul>

## 1-2 中期目標実現のための取組プログラム

### ■プログラム(各部会 共通)

目標実現に向けたプログラム	
取組の推進に係る枠組みづくりと運用	コウノトリ・トキ等を指標とした生態系ネットワーク形成に係る関連計画、アクションプラン等の作成・改定・連携
	関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会、専門部会、各エリア協議会等の設置・開催による継続的な取組みの推進

### ■プログラム(コウノトリ飼育・放鳥条件整備(A部会:たね地づくり))

目標実現に向けたプログラム		
関係機関間連携・情報共有の推進	A1	飼育および放鳥コウノトリに係る情報の共有等、関東関係機関等連携の推進
	A2	トキの野生復帰に向けた情報の収集・共有・支援
	A3	JAZA、IPPM-OWS等の専門機関、全国のエコネット関連事業地との情報共有・連携の推進
コウノトリの健全な野生復帰の推進	A4	生息域外保全(飼育・増殖事業)の推進・支援
	A5	適正な放鳥・繁殖(放鳥拠点・近親婚対応等)の促進・支援
	A6	関東広域の救護・事故防止対策への効果的な取組みの推進【重点プログラム】
	A7	関東広域等における見守り体制ネットワークの検討・連携
受入れ環境づくりに関する認知・理解の促進	A8	関東地域のコウノトリ・トキの野生復帰とエコネットに関する認識・理解の促進【重点プログラム】

## 1-2 中期目標実現のための取組プログラム

### ■プログラム(コウノトリ生息環境整備・推進(B部会:定着地づくり))

目標実現に向けたプログラム		
生息環境づくりに 向けた現状把握 と調査・分析評価	B1	コウノトリ餌生物量調査マニュアル等による調査実施と調査手法の更新・普及、コウノトリ・トキの生息環境ポテンシャル評価の検討
	B2	河川整備計画や流域治水プロジェクトに基づく生息環境整備の適地選定と事業推進手法の検討・実施
	B3	コウノトリの確認地点情報や生態的特性、生息環境整備の現状・計画等の分析評価に基づく「関東地域個体群形成戦略」の検討
	B4	国・自治体等による指標種の生息環境整備に関する計画や活動の整理と取組成果の検証・評価の推進
河川等の堤外に おける治水事業 と調和した生息 環境整備	B5	多自然川づくりや自然再生事業、治水工事に伴う湿地整備等のコウノトリやトキ等の生息に資する既存河川事業地の分析・整理の実施
	B6	河道掘削や調節池整備等の治水事業と指標種の生息環境整備との一体的推進方策の検討・実施
	B7	連携・協働による生息環境整備(保全、再生、創出、管理)推進のための体制拡充
	B8	上～下流や水域・湿地間等の魚道整備・改善、水位調節等による河川の水系連続性の確保
農地等の堤内 における生物多 様性の豊かな生 息環境整備	B9	有機農法や冬期湛水、水田魚道等のコウノトリやトキ等の生息に資する既存農地の分析・整理の実施
	B10	指標種をはじめとする生物多様性に富んだ安全・安心な農法・農業の推進
	B11	田んぼダム、ため池水位管理等の流域治水プロジェクトにおけるコウノトリ・トキ等の生息に資する生産基盤整備の検討・実施
	B12	河川～用水路や水域・湿地間等の魚道整備・改善、水位調節等による農地の水系連続性の確保
流域一体の 総合的な 生息環境整備	B13	エコネットと流域治水の一体的推進による「コウノトリ関東地域個体群」形成への進展【重点プログラム】
	B14	地域特性と各プログラムの統合化による生息環境整備の計画作成・実施【重点プログラム】
コウノトリ・トキに 適した営巣環境 づくり	B15	なわばりや地形条件、周辺環境との調和等に留意したコウノトリ人工巣塔適正配置の検討・支援
	B16	コウノトリやトキの営巣適木や営巣樹林の育成・保全・管理の検討・支援

# 1-2 中期目標実現のための取組プログラム

## ■プログラム(コウノトリ地域振興・経済活性化(C部会:人・地域づくり))

目標実現に向けたプログラム		
現状把握 効果検証	C1	各エリア等の地域振興・経済活性化に効果的な情報収集・整理・共有
	C2	エコネットの事業展開に基づく経済波及効果の試算と検証
	C3	エコネットの形成がもたらす多面的効果(生物多様性、防災・減災、癒し効果等)の検証・整理
	C4	エコネット事業への多様な参画主体の意識動向の把握
多様な主体が 参加する 仕組みづくり	C5	コウノトリやトキ等とくらす地域学習プログラムの実施【重点プログラム】
	C6	様々な立場の人(高齢者・障がい者等)の参加を可能とする体験の場や機会の検討
	C7	エコネットの効果的な推進に向けた関連情報の収集・蓄積・発信
	C8	多様な主体が参加可能となる活動メニューの検討・実施・支援
コウノトリ・トキ等 をシンボルとした 地域振興・経済 活性化事業の 推進支援	C9	コウノトリ・トキ等の情報発信や観察拠点の開設・運営と集客アクセスの改善
	C10	コウノトリ・トキ等をシンボルとした野生動物観光の検討・実施・支援
	C11	環境価値を重視したブランド農産物・商品の開発・生産・販売促進と地域還元方策の検討・実施【重点プログラム】
	C12	各主体の役割に応じた取組みを安定的に支える活動資金の確保
	C13	エコネットを推進する人材育成(環境教育、地域づくり等)の支援
プロジェクトの 継続・発展に 向けた 仕掛けづくり	C14	条例制定等による観察マナー・ルールの普及啓発と見守り隊の結成・活動促進
	C15	多様な主体の参加継続のための支援策(表彰・助成等)の検討・実施
	C16	産官学民セクター間の交流・連携・協働の促進【重点プログラム】
	C17	広域連携ネットワークの推進

# 1-3 取組の推進体制

## 関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会(2013年～)

(学識経験者、民間団体、行政機関(4県・6市町・国交省・農水省・環境省))

たね地づくり専門部会  
(A)  
有識者・行政機関(5県・6市・国・農・環)

定着地づくり専門部会  
(B)  
有識者・行政機関(4県・6市・国・農・環)

人・地域づくり専門部会  
(C)  
有識者・企業・行政機関(4県・6市・国・農・環)

※4県:茨城県・栃木県・埼玉県・千葉県  
※5県:4県+群馬県

関東エコLink ※行政機関実務担当者(テーマによって委員の助言・相談の場として活用)

渡良瀬遊水地エリア  
(利根川上流河川事務所)

渡良瀬遊水地エリア  
エコロジカル・ネットワーク推進協議会  
(2015年～)

有識者  
自治体(4県・10市町)

渡良瀬遊水地エリア  
検討部会

有識者、関係団体  
自治体(4県・10市町)  
関係行政機関(国・農・環)

利根川下流エリア  
(利根川下流河川事務所)

利根川下流域  
エコネット・地域づくり  
推進協議会  
(2025年～)

行政機関(2県・4市町・関東地整・利根下)

荒川流域エリア  
(荒川上流河川事務所)

荒川流域エコネット  
地域づくり推進協議会  
(2017年～)

学識経験者・行政機関(1県・5市町・国交省)

荒川流域エリア  
・ワーキング

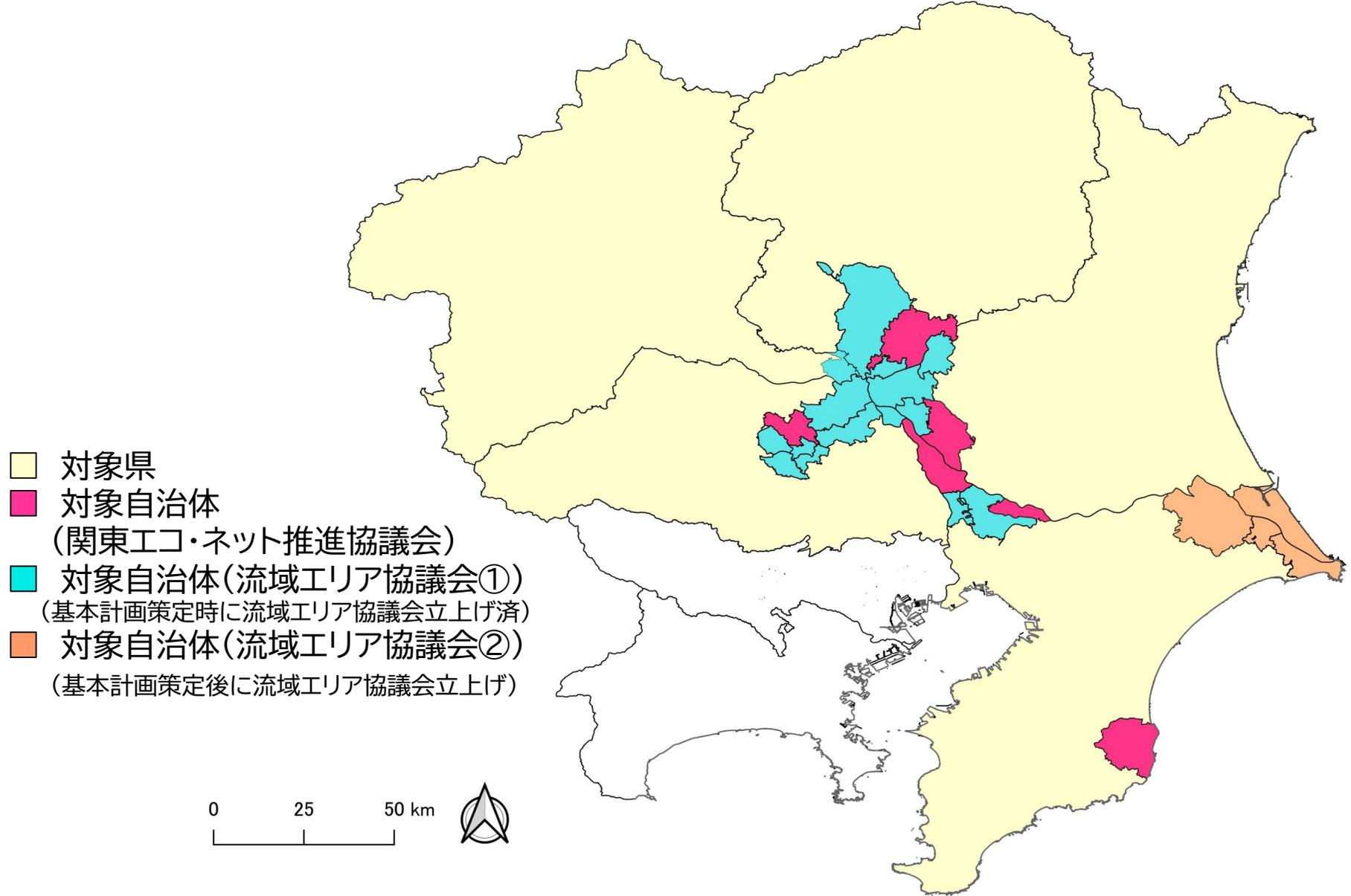
学識経験者、市民団体、  
行政機関(1県・5市町・荒上), オブザーバー(関東地方整備局)

利根運河周辺エリア  
(江戸川河川事務所)

自然と人を育む地域づくり推進協議会  
(利根運河・江戸川・利根川地域)  
(2024年～)

学識経験者・民間団体  
行政機関(1県・3市・国・農・環)、オブザーバー(7市町)

「コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会」(2014～2023年)の後継機関



※対象主体の管轄域を示すものであり、表示範囲全域が対象となるものではありません

図 取組推進主体の位置

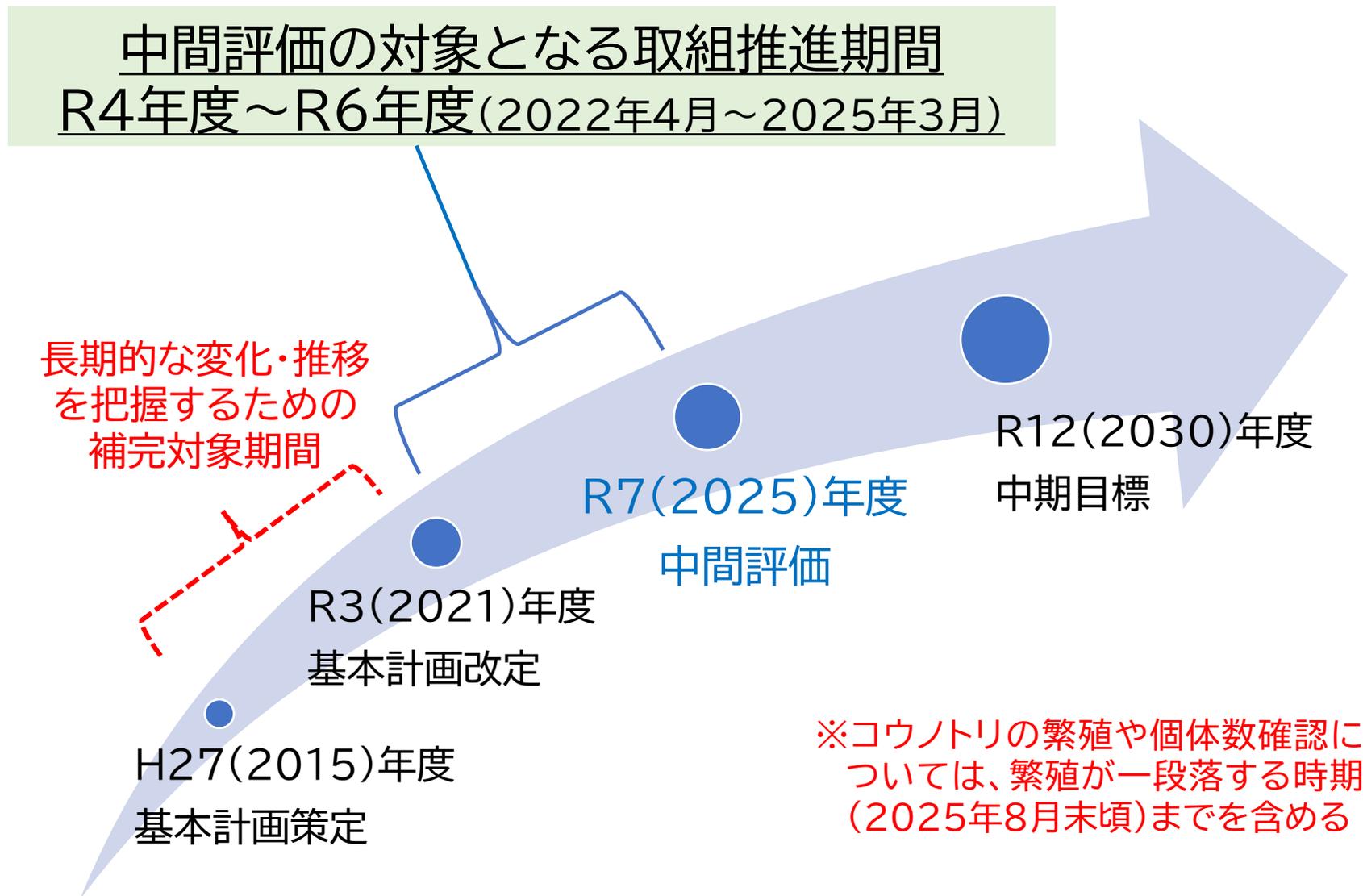
# 1-4 取組の推進期間

## (1) 目標実現に向けたロードマップ



# 1-4 取組の推進期間

## (2) 中間評価の対象となる取組推進期間



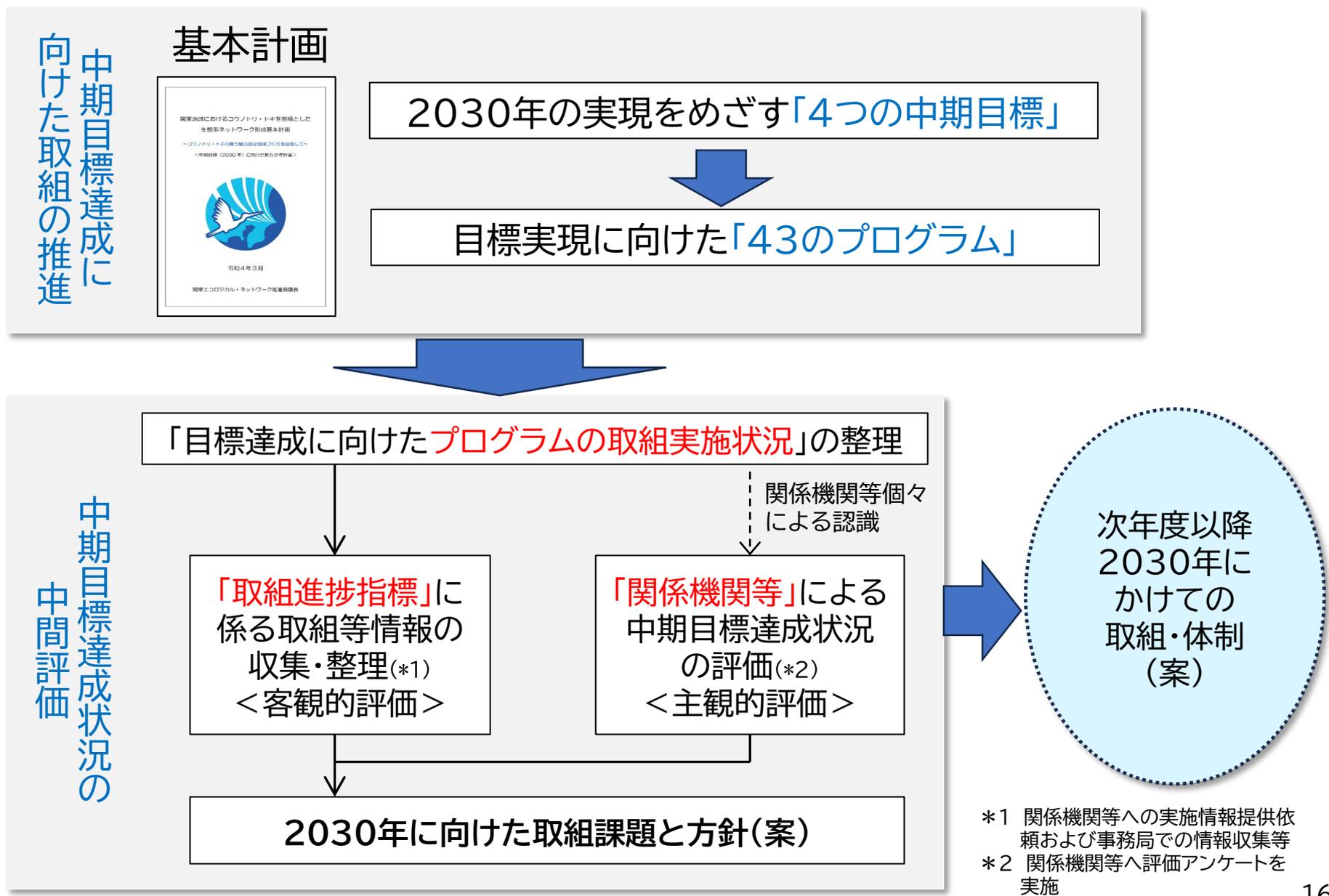
## 2. 中間評価の実施方法

## 2-1 「中間評価」の位置づけ



令和4(2022)年3月に策定した「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画」においては、2050年の到達目標、2030年の中期目標を掲げるとともに、「2030年までの取組の中間地点となる2025年に、取組の進捗状況の中間評価を行い、必要に応じて目標や取組、推進体制等の見直しを行う」としている。

## 2-2 「中間評価」の方法



## 2-3 中間評価に係る「取組進捗指標」

中期目標	取組進捗指標	対応する基本計画プログラム		
I.コウノトリの個体群形成と個体群間の交流 	① コウノトリの飛来や「コウノトリ溜まり」形成の状況	A1、A3、A4、A5、A6、A7、B15		
	② コウノトリの繁殖状況			
	③ 関東地域外からのコウノトリ飛来・繁殖状況			
	④ 関東由来コウノトリの関東地域外での飛来・繁殖状況			
	⑤ コウノトリの生息域外保全・生息域内保全に係る取組の実施状況			
	⑥ コウノトリ・トキに係る関係機関間の情報共有の実施状況			A1、A2、A7
	⑦ コウノトリ・トキや関東エコ・ネットに関する一般市民への情報発信・浸透状況			A7、A8
II.流域が一体となった湿地環境等の改善・創出 	⑧ 生息環境に関する情報共有、調査、評価、取組適地選定の実施状況	B1、B2、B3、B4、B5、B9		
	⑨ 河川域における生息環境創出・改善の実施状況	B6、B13、B14		
	⑩ 農地における生息環境創出・改善の実施状況	B10、B11、B13、B14		
	⑪ 水域連続性確保の実施状況	B8、B12		
	⑫ 生息環境創出・改善のための維持管理の実施状況	B7		
	⑬ 樹林地・草地の育成・保全・管理の実施状況	B16		
III.様々な主体の賑わいによる魅力的な人・地域づくり 	⑭ 地域学習プログラムの実施状況	C5	C1 C3 C16 C17	
	⑮ 多様な主体が参加した取組の実施状況	C6、C8、C12、C15		
	⑯ 魅力的な地域づくりのための情報発信の実施状況	C4、C7、C9、C14		
	⑰ 野生生物や関連する風土を対象としたエコツーリズムの取組状況	C10		
	⑱ エコネット関連商品、及び地域還元方策の取組状況	C2、C11		
	⑲ エコネットを推進する人材育成の実施状況	C13、C14		
IV.個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成 	⑳ エリア協議会数、連携主体数、関東エコ・ネットの対象範囲の拡充状況	共通2		
	㉑ 指標種を掲げた取組の計画作成・実行状況	共通1		
	㉒ 農地の生物多様性保全機能に着目した取組の実施状況	B14		
	㉓ OECM登録等実施状況	B14、B16		
	㉔ サステナビリティ企業活動の実施状況	C6		

### 3. 目標達成に向けたプログラムの取組実施状況

	取組実施状況			
	共通事項	たね地づくり	定着地づくり	人・地域づくり
十分に進んでいる 	0/2	0/8	0/16	0/17
進んでいる 	2/2	6/8	4/16	6/17
着手はしている 	0/2	2/8	10/16	9/17
未着手 	0/2	0/8	2/16	2/17

### 3-1 取組の推進に係る枠組みづくりと運用(共通事項)

プログラム		取組の実施状況(主な実施主体)	
共通1	コウノトリ・トキ等を指標とした生態系ネットワーク形成に係る関連計画、アクションプラン等の作成・改定・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>関東広域の基本計画(関東地方整備局)、エリア協議会(利根川上流・利根川下流・江戸川・荒川上流河川事務所)のアクションプラン・行動計画、関係市(小山市、野田市、鴻巣市、いすみ市等)の生物多様性地域戦略等の作成・改定が行われている。</li> <li>一方で、各種計画の連携は十分に進んでいない。</li> </ul>	
共通2	関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会、専門部会、各エリア協議会等の設置・開催による継続的な取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会・専門部会・テーマに応じたワーキングの継続開催、及び関東エコLinkの新設(関東地方整備局)、各エリア協議会の開催(利根川上流・利根川下流・江戸川・荒川上流河川事務所)が行われている。</li> <li>一方で、会議の開催頻度や検討テーマは会議体毎に異なり、関東広域での会議と各エリア協議会の間で取組の方向性や実施内容に関して整合性が図られているとは言えない。</li> </ul>	

<凡例>

	十分に進んでいる
	進んでいる
	着手はしている
	未着手

共通事項の取組実施状況

十分に進んでいる	0/2
進んでいる	2/2
着手はしている	0/2
未着手	0/2

## 3-2 コウノトリ飼育・放鳥条件整備(たね地づくり)

たね地づくりに係るプログラムにおける主な取組の実施状況を以下に整理する。

プログラム		取組の実施状況(主な実施主体)	
A1	飼育および放鳥コウノトリに係る情報の共有等、関東関係機関等連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼育・放鳥や野外繁殖状況について、会議の場を通じた情報共有の実施。(野田市、鴻巣市、小山市、関東エコ・ネット、関東自治体フォーラム)</li> </ul>	
A2	トキの野生復帰に向けた情報の収集・共有・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>トキの野生復帰やトキと共生する里地づくりについて、会議等の場で情報共有を実施。(関東エコ・ネット、関東自治体フォーラム)</li> </ul>	
A3	JAZA、IPPM-OWS等の専門機関、全国のエコネット関連事業地との情報共有・連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>サントリー世界愛鳥基金の支援による全国各地のコウノトリ・トキ・ツル類をシンボルとした取組に係る情報共有・連携の実施。(企業、民間団体、小山市、野田市等)</li> <li>遺伝的多様性保全のための飼育下での托卵、野外での営巣阻害等の実施。(IPPM-OWS、野田市、栃木市、神栖市)</li> <li>健全な個体群形成等のための巣立ち幼鳥への足環装着の実施。(IPPM-OWS、繁殖地の県市・動物園・獣医・市民団体等)</li> </ul>	
A4	生息域外保全(飼育・増殖事業)の推進・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>コウノトリ飼育・繁殖の実施とIPPM-OWS加盟飼育園による飼育・繁殖支援の継続的实施。(野田市、鴻巣市、IPPM-OWS)</li> </ul>	
A5	適正な放鳥・繁殖(放鳥拠点・近親婚対応等)の促進・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼育下巣立ち個体の放鳥の実施。(野田市)</li> <li>安全な営巣環境確保のための人工巣塔整備の実施。(野田市、小山市、栃木市、神栖市、行方市、地元市民団体、企業)</li> <li>放鳥個体の繁殖を視野に入れた遺伝的多様性確保のための取り組み(托卵による繁殖)の実施。(IPPM-OWS、野田市)</li> <li>野外コウノトリの繁殖に係る遺伝的多様性や安全確保のための取り組み(営巣阻害・事故防止対策、足環装着等)の実施。(IPPM-OWS、自治体、電力・通信会社等)</li> </ul>	

<凡例>

	十分に進んでいる
	進んでいる
	着手はしている
	未着手

### 3-2 コウノトリ飼育・放鳥条件整備(たね地づくり)

プログラム		取組の実施状況(主な実施主体)	
A6	関東広域の救護・事故防止対策への効果的な取組みの推進【重点プログラム】	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な主体の連携・協働による野外コウノトリ対応(救護、事故防止、足環装着等)に係る取組の実施。(IPPM-OWS、自治体、電力・通信会社等)</li> <li>コウノトリの救護・事故防止対策に係る勉強会の開催、野外コウノトリ対応に係る資料集(案)の作成。(関東エコ・ネット)</li> </ul>	
A7	関東広域等における見守り体制ネットワークの検討・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>野田市による放鳥個体のGPSデータに基づくコウノトリの移動・滞在情報の関東自治体フォーラム加盟自治体メーリングリストでの共有。(関東自治体フォーラム)</li> <li>コウノトリ飛来等情報のホームページやSNSでの発信。(自治体、市民団体)</li> <li>コウノトリ飛来時における注意喚起や市民団体等と連携した見守りを実施している。(野田市、小山市、神栖市)</li> </ul>	
A8	関東地域のコウノトリ・トキの野生復帰とエコネットに関する認識・理解の促進【重点プログラム】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おしえてコウノトリBOOK」製作・改訂におけるJAZA, IPPM-OWSとの情報共有・連携を実施。(関東エコ・ネット)</li> <li>コウノトリ飼育・情報発信施設・機関による周知PRワーキングを設置・開催し、連携イベントやイベント情報発信のためのポータルサイトの開設・運用の実施。(関東エコ・ネット)</li> <li>関東エコ・ネット関係者のメーリングリストで、関連イベント情報の共有を実施。(関東エコ・ネット)</li> <li>拠点施設におけるコウノトリに関する情報の発信、イベントの実施等。(野田市、小山市、鴻巣市、多摩動物園、上野動物園、井の頭自然文化園、埼玉県こども動物自然公園、日本獣医生命科学大学附属博物館)</li> <li>コウノトリをシンボルとした地域づくりを行う自治体市民の意識調査の実施。(学識者)</li> <li>計画策定時等における自然環境に関する市民意識調査の実施。(野田市、小山市)</li> </ul>	

<凡例>

	十分に進んでいる
	進んでいる
	着手はしている
	未着手

たね地づくりの取組実施状況	
十分に進んでいる	0/8
進んでいる	6/8
着手はしている	2/8
未着手	0/8

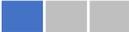
### 3-3 コウノトリ生息環境整備・推進(定着地づくり)

プログラム		取組の実施状況(主な実施主体)	
B1	コウノトリ餌生物量調査マニュアル等による調査実施と調査手法の更新・普及、コウノトリ・トキの生息環境ポテンシャル評価の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査は各地で実施。(市町、河川事務所)</li> <li>生息環境ポテンシャル評価の実施は2例あり。(河川事務所)</li> </ul>	
B2	河川整備計画や流域治水プロジェクトに基づく生息環境整備の適地選定と事業推進手法の検討・実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>生息環境整備の適地選定の実施は2例あり。(河川事務所)</li> </ul>	
B3	コウノトリの確認地点情報や生態的特性、生息環境整備の現状・計画等の分析評価に基づく「関東地域個体群形成戦略」の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>「関東地域個体群形成戦略」または同様の小スケールにおける戦略のいずれも未実施。</li> </ul>	
B4	国・自治体等による指標種の生息環境整備に関する計画や活動の整理と取組成果の検証・評価の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組成果の整理と協議会等の場を通じた情報共有を実施。(市町、河川事務所)</li> </ul>	
B5	多自然川づくりや自然再生事業、治水工事に伴う湿地整備等のコウノトリやトキ等の生息に資する既存河川事業地の分析・整理の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存河川事業地の分析・整理と協議会等の場を通じた情報共有を実施。(市町、河川事務所)</li> </ul>	
B6	河道掘削や調節池整備等の治水事業と指標種の生息環境整備との一体的推進方策の検討・実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>河道内に治水事業・環境整備事業により湿地を創出。(河川事務所)</li> </ul>	
B7	連携・協働による生息環境整備(保全、再生、創出、管理)推進のための体制拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来生物除去等を実施。(市町、県、河川事務所、民間団体)</li> </ul>	
B8	上～下流や水域・湿地間等の魚道整備・改善、水位調節等による河川の水系連続性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川と水路の接続部での魚道整備等を実施。(河川事務所)</li> </ul>	

<凡例>

	十分に進んでいる
	進んでいる
	着手はしている
	未着手

### 3-3 コウノトリ生息環境整備・推進(定着地づくり)

プログラム		取組の実施状況(主な実施主体)	
B9	有機農法や冬期湛水、水田魚道等のコウノトリやトキ等の生息に資する <b>既存農地の分析・整理</b> の実施	・ 既存農地の分析・整理と協議会等の場を通じた情報共有を実施。(市町、エリア協議会)	
B10	指標種をはじめとする生物多様性に富んだ <b>安全・安心な農法・農業</b> の推進	・ 有機栽培等を実施。(市町)	
B11	田んぼダム、ため池水位管理等の <b>流域治水プロジェクト</b> におけるコウノトリ・トキ等の生息に資する <b>生産基盤整備の検討・実施</b>	・ 田んぼダムの設置や江・ワンドの整備等を実施(市町、県、農業水利事業所、民間団体)	
B12	河川～用水路や水域・湿地間等の魚道整備・改善、水位調節等による <b>農地の水系連続性の確保</b>	・ 魚道整備を実施。(市町、県、民間団体)	
B13	エコネットと流域治水の一体的推進による「 <b>コウノトリ関東地域個体群</b> 」形成への進展【 <b>重点プログラム</b> 】	・ 治水と一体的な環境創出がコウノトリの生息・繁殖に寄与。(市町、河川事務所、農業水利事業所、民間団体)	
B14	地域特性と各プログラムの <b>統合化による生息環境整備の計画作成・実施</b> 【 <b>重点プログラム</b> 】	・ プログラム統合化による計画作成に向けた検討をWGで進めている。(関東エコ・ネット)	
B15	なわばりや地形条件、周辺環境との調和等に留意した <b>コウノトリ人工巣塔適正配置の検討・支援</b>	・ コウノトリ飛来地において、コウノトリの利用頻度・密度や繁殖活動、社会的条件などから選定した場所へ整備を実施。(市町、民間団体等)	
B16	コウノトリやトキの <b>営巣適木や営巣樹林の育成・保全・管理の検討・支援</b>	・ 営巣木・林の検討は未実施。	

<凡例>

	十分に進んでいる
	進んでいる
	着手はしている
	未着手

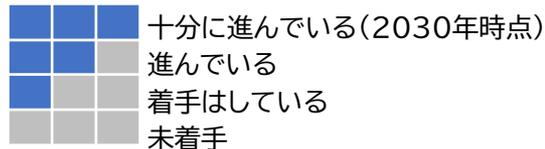
定着地づくりの取組実施状況

十分に進んでいる	0/16
進んでいる	4/16
着手はしている	10/16
未着手	2/16

### 3-4 コウノトリ地域振興・経済活性化(人・地域づくり)

プログラム		取組の実施状況(主な実施主体※) ※具体的な実施主体は(参考)取組進捗指標を参照	
C1	各エリア等の地域振興・経済活性化に効果的な情報収集・整理・共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なプログラムについて効果的に取り組む手段として、各会議を開催することで、情報収集・整理や、関係者間での情報共有を実施。(関東エコ・ネット)</li> </ul>	
C2	エコネットの事業展開に基づく経済波及効果の試算と検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度以降は実施していない。</li> </ul>	
C3	エコネットの形成がもたらす多面的効果(生物多様性、防災・減災、癒し効果等)の検証・整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント等来訪者に対して、様々なプログラムによる結果として期待する効果について、アンケートを実施。(関東エコ・ネット)</li> </ul>	
C4	エコネット事業への多様な参画主体の意識動向の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント等来訪者へのアンケートを実施。(関東エコ・ネット)</li> <li>地域住民へのアンケートを実施。(市町、関係者外の学識者)</li> </ul>	
C5	コウノトリやトキ等とくらす地域学習プログラムの実施 【重点プログラム】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種プログラムを実施。(関東エコ・ネット、県、市町、河川事務所、民間団体)</li> </ul>	
C6	様々な立場の人(高齢者・障がい者等)の参加を可能とする体験の場や機会の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者・障がい者の参加を促す取組は実施されていない。</li> </ul>	
C7	エコネットの効果的な推進に向けた関連情報の収集・蓄積・発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連主体を含む取組について、情報収集や対外的な情報発信を実施。(関東エコ・ネット)</li> <li>自身の取組について、新聞やSNS等による情報発信を実施。(国、県、市町、民間団体)</li> </ul>	
C8	多様な主体が参加可能となる活動メニューの検討・実施・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業や地元住民、地域外からの人々が参加できる取組を実施。(県、市町、民間団体)</li> </ul>	

<凡例>



### 3-4 コウノトリ地域振興・経済活性化(人・地域づくり)

プログラム		取組の実施状況(主な実施主体※) ※具体的な実施主体は(参考)取組進捗指標を参照	
C9	コウノトリ・トキ等の情報発信や観察拠点の開設・運営と集客アクセスの改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルサイトにて対外的な情報発信を実施。(関東エコ・ネット)</li> <li>観察拠点の運営や集客アクセスの改善を実施。(県、市町、民間団体)</li> </ul>	
C10	コウノトリ・トキ等をシンボルとした野生動物観光の検討・実施・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然観察会や周遊イベント等の低価格な取組を実施。(市町、民間団体、エリア協議会)</li> </ul>	
C11	環境価値を重視したブランド農産物・商品の開発・生産・販売促進と地域還元方策の検討・実施【重点プログラム】	<ul style="list-style-type: none"> <li>農産物・商品の開発支援や販売、売上の一部を自然保護活動へ活用する取組を実施。(市町、民間団体)</li> </ul>	
C12	各主体の役割に応じた取組みを安定的に支える活動資金の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金等による支援を実施。(国、市町)</li> <li>企業版ふるさと納税による資金確保を実施。(市町)</li> </ul>	
C13	エコネットを推進する人材育成(環境教育、地域づくり等)の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア養成講座等を実施。(市町、民間団体)</li> </ul>	
C14	条例制定等による観察マナー・ルールの普及啓発と見守り隊の結成・活動促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察マナー・ルールの普及啓発を実施。(市町)</li> <li>見守り隊の活動を実施。(民間団体)</li> </ul>	
C15	多様な主体の参加継続のための支援策(表彰・助成等)の検討・実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>表彰制度等を実施。(県、市町)</li> </ul>	
C16	産官学民セクター間の交流・連携・協働の促進【重点プログラム】	<ul style="list-style-type: none"> <li>C11のプログラムと併せて検討。(関東エコ・ネット)</li> <li>様々なプログラムを実施する際に、より効果的な取組とする手段として実施。(国、県、市町、民間団体)</li> </ul>	
C17	広域連携ネットワークの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>C5のプログラムで交流学习を実施する際に、より効果的な取組とする手段として関東外のエリアとの連携を実施。(関東エコ・ネット)</li> </ul>	

<凡例>

	十分に進んでいる
	進んでいる
	着手はしている
	未着手

人・地域づくりの取組実施状況	
十分に進んでいる	0/17
進んでいる	6/17
着手はしている	9/17
未着手	2/17

## 4. 中期目標に係る取組進捗状況の評価

## 4-1 取組進捗指標による評価

### 【評価基準】

A:R6(2024)年度末時点において、中期目標を達成している

B:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、現状の取組を継続すれば、2030年までに達成可能

C:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、取組内容や進め方を見直せば、2030年までに達成可能

D:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成しておらず、2030年までの達成は困難

# 4-1-1 【中期目標 I】コウノトリの個体群形成と個体群間の交流

## 取組進捗指標による評価(案)

### 中期目標 I

コウノトリの関東地域個体群の形成が進むとともに、コウノトリをシンボルとする国内各流域のエコネット事業地間から東アジアに至る個体群間の交流がはじまっている。

### 目標の具体イメージ(i)

2020年時点で、関東中央部の利根川沿い3か所に形成された「コウノトリ溜まり」が、荒川流域や相模川流域等、関東各地の河川流域に広がると共に繁殖地も徐々に増加し、関東地域の繁殖地間からコウノトリをシンボルとする国内各流域のエコネット事業地間の個体群との移動・交流が確認されている。さらに、大陸レベルの韓国や中国・ロシアなど東アジア個体群との個体交流がはじまっている。

### 評価(案)

達成状況	対応する進捗指標	評価理由
B	①②③ ⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>野田市によるコウノトリの飼育・繁殖・放鳥や、IPPM-OWSによる飼育・繁殖・放鳥や野外個体対応への連携・協力・支援が着実に推進されており、利根川流域に形成された3カ所の「コウノトリ溜まり」が、霞ヶ浦、那珂川・涸沼流域に広がりつつあり、繁殖ペア数や巣立ち幼鳥数も増加、今後、鴻巣市からの放鳥により荒川流域にも広がることが期待されるなど、<u>関東地域個体群形成が進んでいる</u>。</li> <li>これら関係主体の取組推進により、<u>他地域からの飛来個体が関東で繁殖・定着</u>は実現している。関東地域個体群形成がこのまま順調に進めば、近い将来、関東由来個体の関東地域外における繁殖も実現すると考えられる。</li> </ul>
D	④	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>関東地域と東アジア間における個体交流は確認されていないが、移動やペアリングなどは野生動物としてのコウノトリの自然の動向に任せるしかなく人為的な関与・推測は難しい</u>。関東地域を含む全国での取組が継続され、日本全国の個体数が十分に大きくなっていくことで自然に実現するものと推測されるが、<u>関東地域における2030年までの実現は難しい</u>と考えられる。</li> </ul>

# 4-1-1 【中期目標 I】コウノトリの個体群形成と個体群間の交流

## 取組進捗指標による評価(案)

目標の具体イメージ(ii)		
<p>関東広域で共通するコウノトリの救護・事故防止対策(人的要因による)について、各県をはじめ国・市町村・関連機関・企業・民間団体等の連携・協働による広域的な情報共有や一元的対応の仕組みの構築が進み、流域エリアごとの対応が円滑かつ効果的に進められている。</p>		
評価(案)		
達成状況	対応する進捗指標	評価理由
B	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>救護・事故防止対策について、IPPM-OWSや関東自治体フォーラム、関東エコ・ネット等を通じた情報共有など、主体毎の取組の推進により対応が図られ経験・実績が積上げられている。</li> <li>全国的な生息エリアの拡大・個体数増加に伴う対応頻度の増加により、関東地域における自立的・効率的な取組、および野生動物であるコウノトリ個体群への人為的な関りのあり方や、共生のあるべき姿の明確化など新たな課題が出て来ている。</li> </ul>

目標の具体イメージ(iii)		
<p>コウノトリ野生復帰の取組みと、その生物多様性や地域づくりへの意義などが、一般市民にも浸透し、主要な水辺拠点で観察されるコウノトリの存在が「当たり前」になりつつある。</p>		
評価(案)		
達成状況	対応する進捗指標	評価理由
C	⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>コウノトリの関東地域個体群形成が進むことにより、コウノトリの飼育実施、繁殖確認されているエリアを中心にコウノトリの存在が当たり前になりつつあるが、関東広域における一般市民には、コウノトリの存在や野生復帰の取組の認知は進んでいない。</li> <li>コウノトリが飛来・繁殖している自治体におけるHPやSNSでの発信、「おしえてコウノトリBOOK」の制作・配布、動物園等施設との連携やJBFへの参加などにより、鳥や生きものに関心のある層には徐々に認知が進みつつあるが、関東全域・一般市民の観点からは認知は低く、マスコミ等への露出も少ない。</li> </ul>

# 4-1-1 【中期目標 I】コウノトリの個体群形成と個体群間の交流

## 取組進捗指標による評価(案)

### 目標の具体イメージ(iv)

当面のシンボルとして掲げていたコウノトリを対象とした取組みの実績・成果を踏まえ、佐渡から全国へ広がる「トキ」の野生復帰を実現する取組み(※)が、関東でも進展している。

### 評価(案)

達成状況	対応する進捗指標	評価理由
C	⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>関東自治体フォーラムの有志自治体が環境省の「トキと共生する里地づくり取組地域」に申請・選定されており、<u>トキを意識した生息環境づくりなどの取組がはじまっている。</u></li> <li>当面の取組はコウノトリを対象として進めてきており、<u>トキの野生復帰に関する情報共有やコウノトリの実績・成果を踏まえた関東地域におけるトキの野生復帰に関する取組は進んでいない。</u>本州でのトキ放鳥が予定されており、関東地域に飛来した場合の対応を想定していく必要がある。</li> </ul>

(※)「野生復帰」：生息域外での飼養・繁殖から放鳥する取組だけでなく、放鳥された個体が飛来した場合の生息地となるよう、生息環境や社会的な受け入れ態勢を整備する取組までを含めた、広義の「野生復帰」を指す。

A:R6(2024)年度末時点において、中期目標を達成している

B:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、現状の取組を継続すれば、2030年までに達成可能

C:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、取組内容や進め方を見直せば、2030年までに達成可能

D:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成しておらず、2030年までの達成は困難

## 4-1-2 【中期目標Ⅱ】流域が一体となった湿地環境等の改善・創出

### 取組進捗指標による評価(案)

#### 中期目標Ⅱ

コウノトリやトキの関東地域個体群が自活して繁殖・生息が可能となる湿地環境等の改善や創出が、堤外・堤内における関連主体の役割分担に応じ流域一体で進められており、河川と水田がつながることで淡水魚があふれている。

#### 目標の具体イメージ(i)

「流域治水プロジェクト」や「緊急治水対策プロジェクト」による防災・減災対策と、エコロジカル・ネットワークによる湿地整備が一体的に推進され、コウノトリやトキが繁殖・生息可能となる湿地環境等が実装された治水事業等が、河川区域(堤外地)と流域(堤内地)のそれぞれに相応しい事業主体の役割分担に基づいて、関東の各流域で進められている。

#### 評価(案)

達成状況	対応する進捗指標	評価理由
C	⑨～⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>4つのエリアで<u>治水事業と一体的な湿地整備と堤内地の各種事業</u>が連携して取組まれ、このうち3つのエリアではコウノトリの繁殖につながった。さらに、このうち2つのエリアでは継続的な繁殖が実現しており、関東地域個体群が形成されつつある。</li> <li>取組の主体や実施範囲はまだ一部に留まっており、コウノトリの繁殖場所も限られている。</li> </ul>

A: R6(2024)年度末時点において、中期目標を達成している

B: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、現状の取組を継続すれば、2030年までに達成可能

C: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、取組内容や進め方を見直せば、2030年までに達成可能

D: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成しておらず、2030年までの達成は困難

## 4-1-2 【中期目標Ⅱ】流域が一体となった湿地環境等の改善・創出

### 取組進捗指標による評価(案)

目標の具体イメージ(ii)		
<p>渡良瀬遊水地でのコウノトリ繁殖実現要因の分析結果から、「関東広域推進モデル」が構築され、コウノトリやトキの生息ポテンシャルの高いエリアと治水事業優先地区との整合を踏まえた湿地整備への適用方策が効果をあげている。</p>		
評価(案)		
達成状況	対応する進捗指標	評価理由
D	⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>渡良瀬遊水地エリアでのコウノトリ繁殖実績や渡良瀬遊水地内の生きもの調査等に基づく生息環境適地の分析は行われているが、堤内地の農地や地域振興に係る社会的取組などとの要因分析は行われておらず、モデル構築には至っていない。</li> <li>治水と一体的な環境創出を行う新たな動きは、今後本格化する段階である。</li> <li>2030年までに他のエリアでも継続的な繁殖が実現することは期待でき、それらの成果をもとにモデルを構築できる可能性はあるが、これを「他地域に適用して効果を挙げる」ところまでには至らない可能性が高いと考えられる。</li> </ul>

A:R6(2024)年度末時点において、中期目標を達成している

B:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、現状の取組を継続すれば、2030年までに達成可能

C:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、取組内容や進め方を見直せば、2030年までに達成可能

D:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成しておらず、2030年までの達成は困難

## 4-1-3 【中期目標Ⅲ】様々な主体の賑わいによる魅力的な人・地域づくり

### 取組進捗指標による評価(案)

中期目標 Ⅲ	
<p>コウノトリ・トキと共にくらせる<u>地域を誇り</u>とし、地域経済及び社会を構成する<u>様々な主体の賑わい</u>による、持続可能で魅力ある地域づくりが進められている。</p>	

目標の具体イメージ(i)	
<p>コウノトリ・トキと共にくらせる<u>地域への誇りが醸成</u>され、コウノトリ・トキ等の<u>指標種をテーマとした学習や各種活動</u>が、持続可能な社会の実現に向けた2030年世界目標(SDGs)の達成も踏まえて、<u>官民連携のもとで展開</u>されている。</p>	

評価(案)		
達成状況	対応する進捗指標	評価理由
B	⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>地域への誇りの醸成</u>については、野田市では、生物多様性地域戦略に則った社会環境調査(アンケート)が実施され、将来世代へ市の「自然や生き物が増えてほしい・守り残していきたい」との回答が約50%、<u>今後の“市の鳥”の案としてコウノトリが約70%(2位は現在の市の鳥であるひばりが26%)</u>と支持率が一番高い結果となった。</li> </ul>
B	⑭⑮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>指標種をテーマとした学習や各種活動</u>については、専門部会において、地域学習プログラムの策定やオンライン交流学習の支援の実施・広域展開の検討が進み、<u>自発的・自立的な現地交流などの発展的な取組</u>が見られる。また、環境学習やイベントに取り組む主体は多い一方で、<u>エコネットをテーマにした取組の実施率</u>には差がある。</li> </ul>

## 4-1-3 【中期目標Ⅲ】様々な主体の賑わいによる魅力的な人・地域づくり

### 取組進捗指標による評価(案)

具体イメージ(i)		
<p>コウノトリ・トキと共にくらせる地域への誇りが醸成され、コウノトリ・トキ等の指標種をテーマとした学習や各種活動が、持続可能な社会の実現に向けた2030年世界目標(SDGs)の達成も踏まえて、官民連携のもとで展開されている。</p>		
評価(案)		
達成状況	対応する進捗指標	評価理由
C	⑮	<ul style="list-style-type: none"> <li>官民連携のもとでの展開については、自治体においては、企業による冬みずたんぼやトキの採餌環境整備、人工巣塔の設置への多額の寄付事業や、コウノトリとの共生を目指した、企業との協定の締結がなされているほか、環境省や県では、企業と自治体や活動団体のマッチング事業がスタートしているが、取組の実施主体や実施範囲が一部に留まっている。</li> </ul>

A: R6(2024)年度末時点において、中期目標を達成している

B: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、現状の取組を継続すれば、2030年までに達成可能

C: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、取組内容や進め方を見直せば、2030年までに達成可能

D: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成しておらず、2030年までの達成は困難

## 4-1-3 【中期目標Ⅲ】様々な主体の賑わいによる魅力的な人・地域づくり

### 取組進捗指標による評価(案)

具体イメージ(ii)		
各流域エリアにおいて、コウノトリ・トキ等をシンボルとした付加価値創出や、多様な主体の連携・協働による農業や観光などの環境貢献型産業が活発に展開されるとともに、防災や環境づくりを地域住民が主導するグリーンコミュニティの構築が各地で進められている。		
評価(案)		
達成状況	対応する進捗指標	評価理由
C	⑰⑱	<ul style="list-style-type: none"> <li>付加価値創出や、農業・観光などの環境貢献型産業については、市町が支援する関連商品の開発・販売や低料金の観察会等のエコツアーの取組はいくつかの主体で進んでいるが、経済効果や取組への還元には至っていない。</li> </ul>
C	⑮⑲	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンコミュニティの構築については、見守り隊やガイドクラブの活動、それらにつながる人材育成が一部地域で認められるが、コミュニティを支援する仕組みは十分に取組まれていない。</li> </ul>

A:R6(2024)年度末時点において、中期目標を達成している

B:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、現状の取組を継続すれば、2030年までに達成可能

C:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、取組内容や進め方を見直せば、2030年までに達成可能

D:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成しておらず、2030年までの達成は困難

## 4-1-4 【中期目標Ⅳ】個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成

### 取組進捗指標による評価(案)

#### 中期目標Ⅳ

グリーンインフラの概念による流域治水の取組が主流化し、コウノトリ・トキのほかにも関東各エリアの地域特性に基づく指標種を加味した、個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成が促進されている

#### 目標の具体イメージ(i)

コウノトリをはじめとする多種多様な水辺の生きものがくらせる湿地環境の再生・創出・ネットワーク形成を進める共通認識が浸透し、治水を目的とする河道掘削や調整池・ため池・田んぼダム等の流域治水事業においても、生物の生息環境改善も目的として位置付け実施される技術手法が一般化し、各地でネットワーク化が促進されている。

#### 評価(案)

達成状況	対応する進捗指標	評価理由
C	⑳㉑	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>多種多様な水辺の生きものがくらせる湿地環境の再生・創出・ネットワーク形成を進めること</u>の認識は共通しているが、各エリア間での情報共有が不足していると考えられる。</li> </ul>
D	⑳㉑	<ul style="list-style-type: none"> <li>治水を目的とする河道掘削や調整池・ため池・田んぼダム等の<u>流域治水事業においても、生物の生息環境改善も目的</u>としていることは認識されているものの、実装に至る技術手法が普及しておらず、一般化には至っていない。</li> </ul>

## 4-1-4 【中期目標Ⅳ】個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成

### 取組進捗指標による評価(案)

具体イメージ(ii)		
<p>コウノトリ・トキのほか、<b>地域特性に応じた指標・シンボル種</b>が各エリアで設立されている協議会ごとに選定され、<b>地域らしさを活かした流域アクションプラン等の作成に基づき、参画セクターの協働による計画的・主体的な取組が展開</b>されている。</p>		
評価(案)		
達成状況	対応する進捗指標	評価理由
C	⑳㉑	<ul style="list-style-type: none"> <li>コウノトリは広域指標種として認識されているものの、<b>地域特性に応じた指標・シンボル種の検討</b>は未だ一部のエリア協議会でしか行われていない。</li> </ul>
D	㉒㉓㉔	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域らしさを活かした流域アクションプラン等の推進において、エリア間は元よりエリア内の主体間でも目指す方向性の違いや温度差があるほか、<b>参画セクターの取組についての連携・協働</b>が十分進められている状況には無いと考えられる。</li> </ul>

A:R6(2024)年度末時点において、中期目標を達成している

B:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、現状の取組を継続すれば、2030年までに達成可能

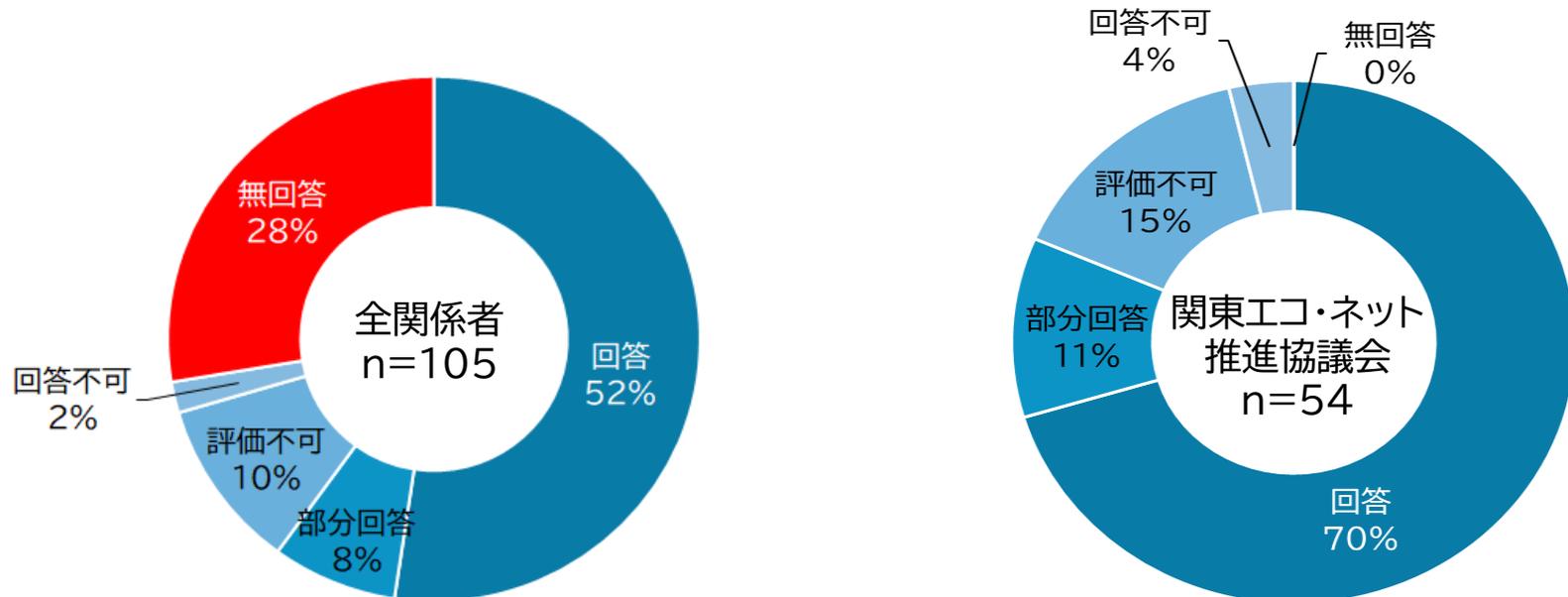
C:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、取組内容や進め方を見直せば、2030年までに達成可能

D:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成しておらず、2030年までの達成は困難

## 4-2 関東エコ・ネット関係者による評価

# 中期目標評価アンケートの回答状況

- 中期目標進捗に係る評価アンケートに協力頂いた関東エコ・ネット関係機関105主体、関東エコ・ネット推進協議会54主体の回答状況は、以下のグラフに示す通りであった。
- 全105主体の約28%、エリア協議会関係の29主体(主に学識者・民間団体)が「無回答」(アンケート票の返信自体がない)であり、4つの中期目標全てを評価回答した主体は約半数であった。関東エコ・ネット推進協議会の関係主体においても、3割が評価不可・回答不可や所属する部会に係るテーマだけなどの部分回答であった。
- アンケートの実施を通じ、エリア協議会関係者はもとより、関東エコ・ネット推進協議会関係者との間においても、取組の目標や取組状況等に係る認識・情報等の共有不足が確認された。  
※全関係者における「無回答」の割合が非常に大きいため、各中期目標ごとの集計・分析は、「無回答」を除いて行った。(全関係者n=76/関東エコ・ネット推進協議会n=54)



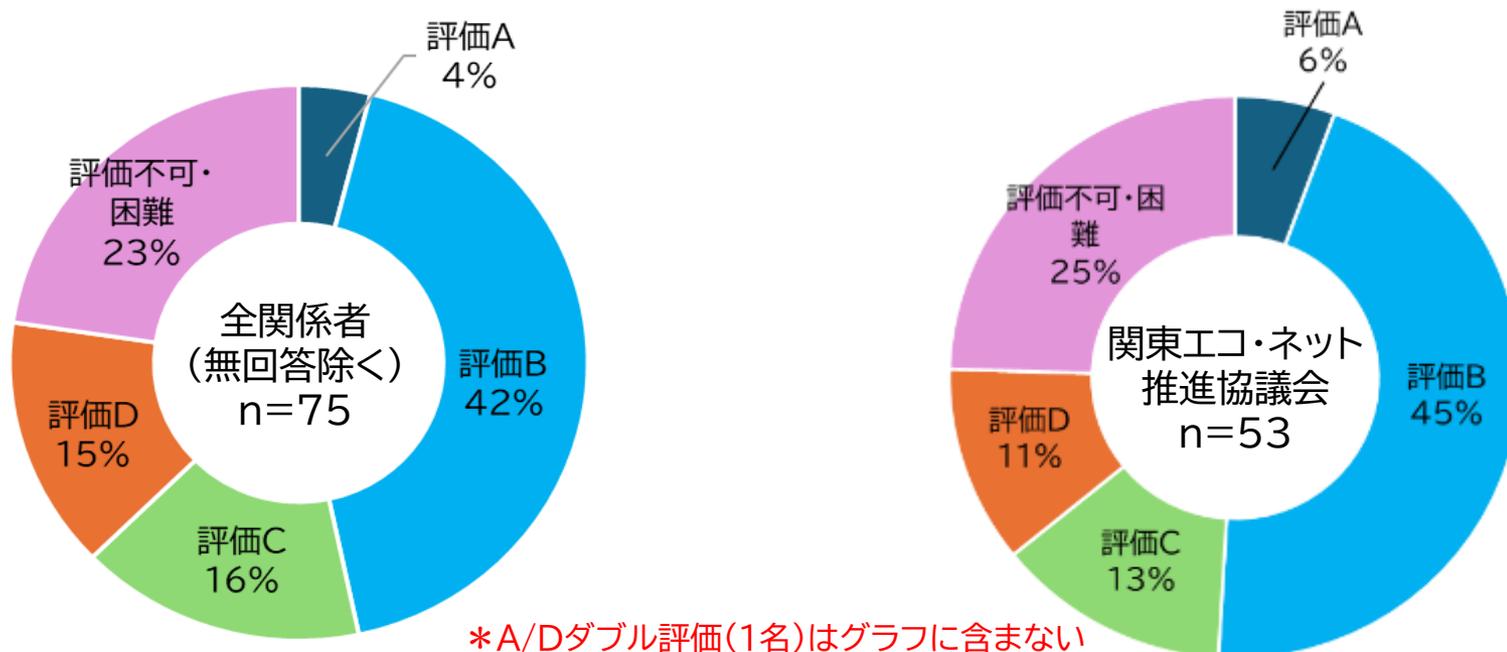
全関係者(105主体): 関東エコロジカル・ネットワーク、渡良瀬遊水地エリア、利根川下流エリア、荒川流域エリア、利根運河周辺エリアの各協議会、部会の委員・オブザーバー

関東エコ・ネット推進協議会(54主体): 関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会、専門部会の委員、オブザーバー

## 4-2-1 中期目標 I .コウノトリの個体群形成と個体群間の交流

### (1) 評価結果

- 関東エコ・ネットの直接的な関係者の評価、およびエリア協議会を含む全関係者の評価ともに、ほぼ同様の評価結果となっており、「評価A」または「評価B」が、全体の約50%を占めており、取組内容や進め方を見直せば達成可能とする「評価C」をあわせると60%前後になる。
- 情報不足あるいは担当テーマでないため分からない等の理由で「評価不可・困難」とする人が全体の約4分の1を占めた。
- 「評価D」とした人の多くは、関東地域個体群の形成の進捗はプラスに評価しつつ、国内外他地域個体群との交流が2030年までに達成困難と評価する傾向が確認された。



A:R6(2024)年度末時点において、中期目標を達成している

B:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、現状の取組を継続すれば、2030年までに達成可能

C:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、取組内容や進め方を見直せば、2030年までに達成可能

D:R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成しておらず、2030年までの達成は困難

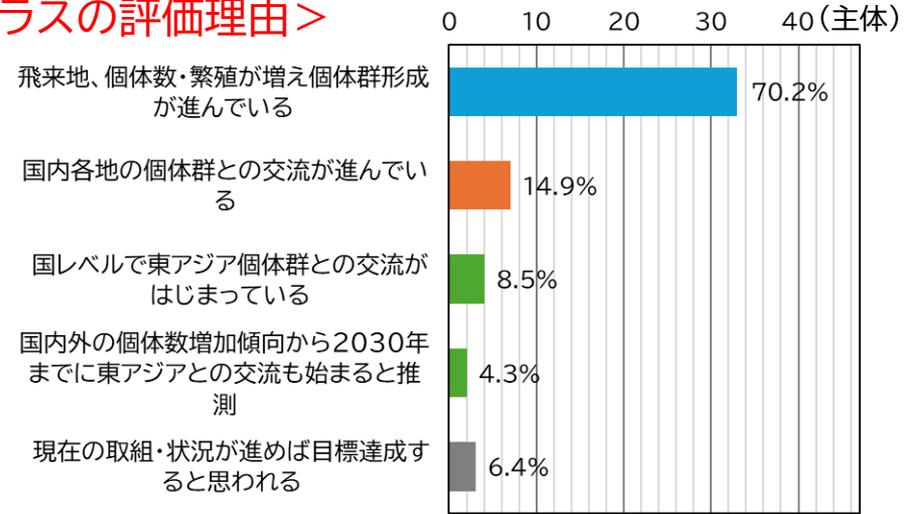
# 4-2-1 中期目標 I .コウノトリの個体群形成と個体群間の交流

## (2) 評価理由

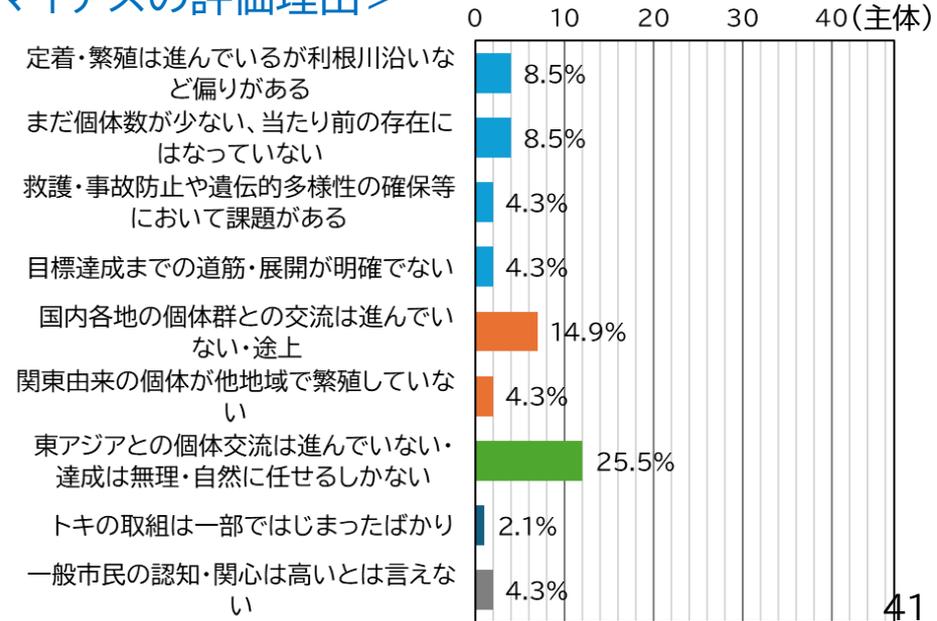
\*記述回答数:47主体(全76主体中)

- 回答者の7割が個体群形成が進んでいると評価しているが、定着地の偏りや当たり前の存在にまでは至っていないこと、救護・遺伝的多様性の確保等の課題があることの指摘もある。
- 国内他地域との交流については、進んでいる・進んでいないとする声と同じ位あり、コウノトリに関する情報量や捉え方にも差があると推測される。
- 東アジアとの交流については、はじまりつつある・2030年までにはじまるだろうとする評価もあるが、現時点では飛来・繁殖ともに交流はなく、また人為的にコントロールできるものではなく自然に任せるしかないだろうとの指摘が多い。
- その他、目標達成までの道筋が明確でないこと、一般市民の認知・関心が十分に高いとは言えない等も、マイナス評価理由として挙がっている。

### <プラスの評価理由>



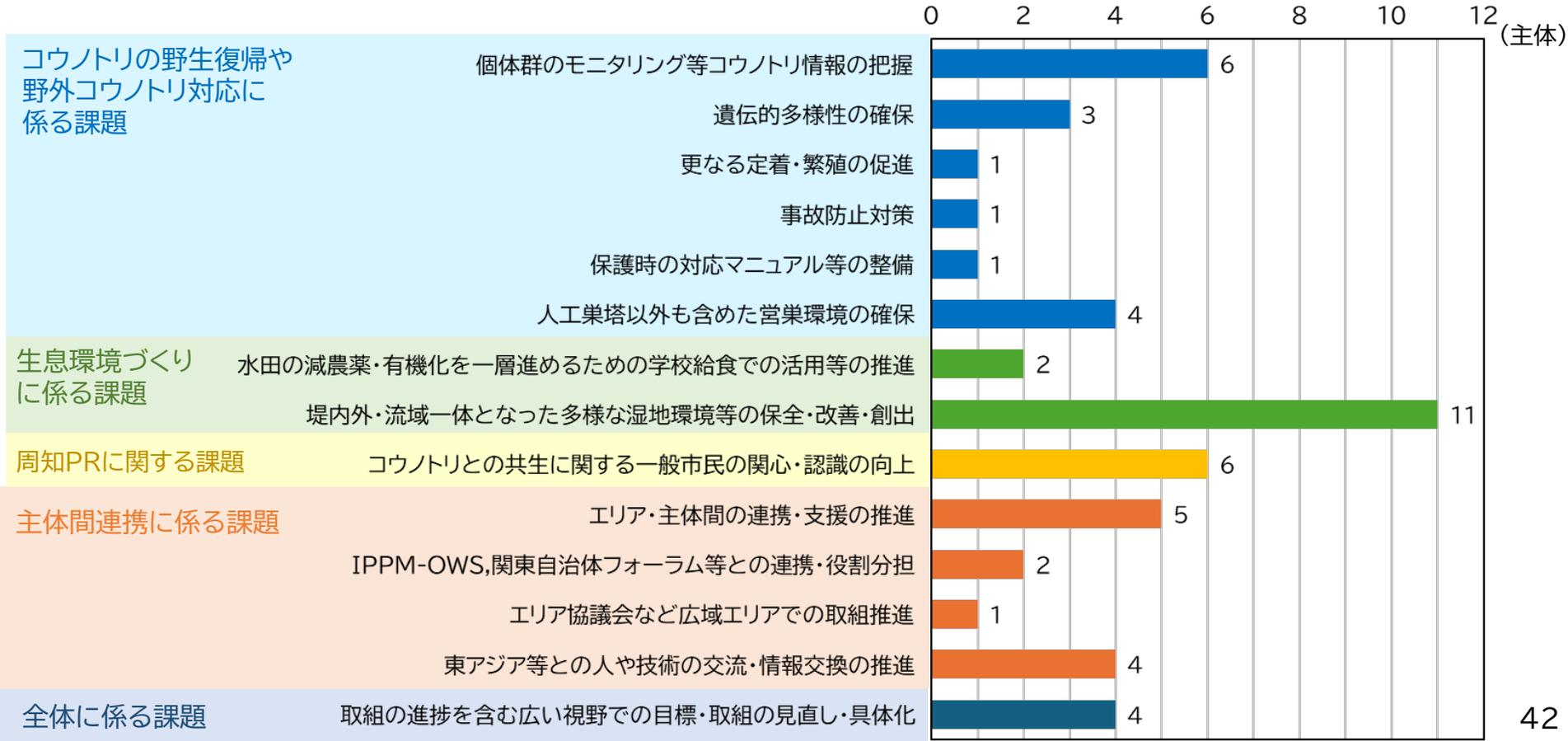
### <マイナスの評価理由>



# 4-2-1 中期目標Ⅰ.コウノトリの個体群形成と個体群間の交流

## (3) 中期目標達成または今後の展開に向けた課題・提案 \*記述回答数:35主体(76主体中)

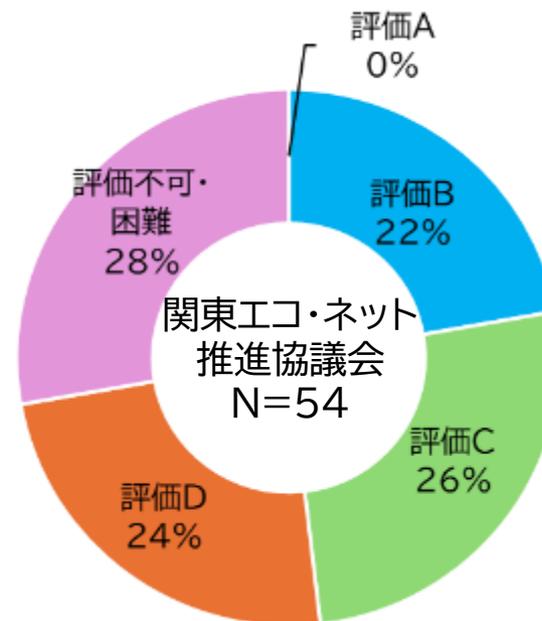
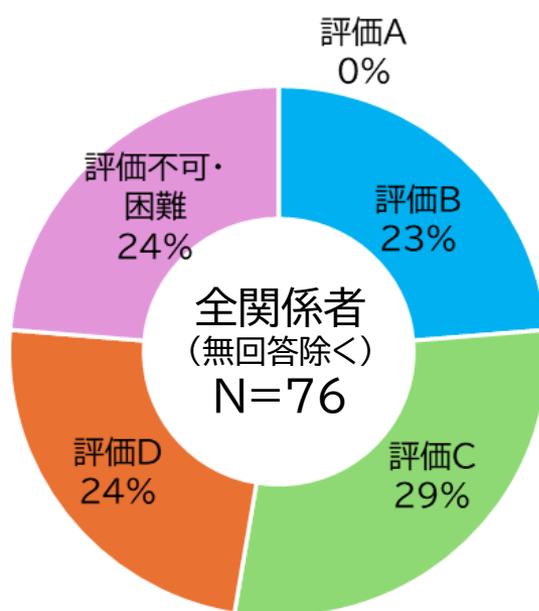
- 中期目標の達成は現状における取組継続で達成可能とする評価が多いものの、現状の取組の中でも推進すべき課題が多く挙げられた。
- 大きくは、**野外コウノトリの対応**に関する課題、中期目標Ⅱと関係の深い「**生息環境づくり**」に係る課題、**観察マナーを含む一般市民による認識の向上**など「**情報発信・共有**」に係る課題、**関係機関等との連携の強化**のほか、**トキに係る取組**や**人為的な関りの範囲の検討**など、中期目標Ⅰの**具体的な達成イメージの関係者間での共有の必要性**なども挙げられている。



## 4-2-2 【中期目標Ⅱ】 流域が一体となった湿地環境等の改善・創出

### (1) 評価結果

- ・ 関東エコ・ネットの直接的な関係者の評価、およびエリア協議会を含む全関係者の評価ともに、ほぼ同様の評価結果となっており、「評価A」との回答はゼロ、「評価B」と「評価C」との評価をを合わせると50%前後、「評価D」は24%である。
- ・ 情報不足あるいは担当テーマでないため分からない等の理由で「評価不可・困難」とする人は全体の約4分の1を占め、関東広域の現状が関係者自体に十分に認識されていない状況が確認できた。
- ・ 「評価D」とした人の多くは、取組の広がり、結果としての淡水魚の量、最終的な目標であるコウノトリの生息状況について、それぞれまだ不十分であることを評価理由としている傾向が確認された。



A: R6(2024)年度末時点において、中期目標を達成している

B: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、現状の取組を継続すれば、2030年までに達成可能

C: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、取組内容や進め方を見直せば、2030年までに達成可能

D: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成しておらず、2030年までの達成は困難

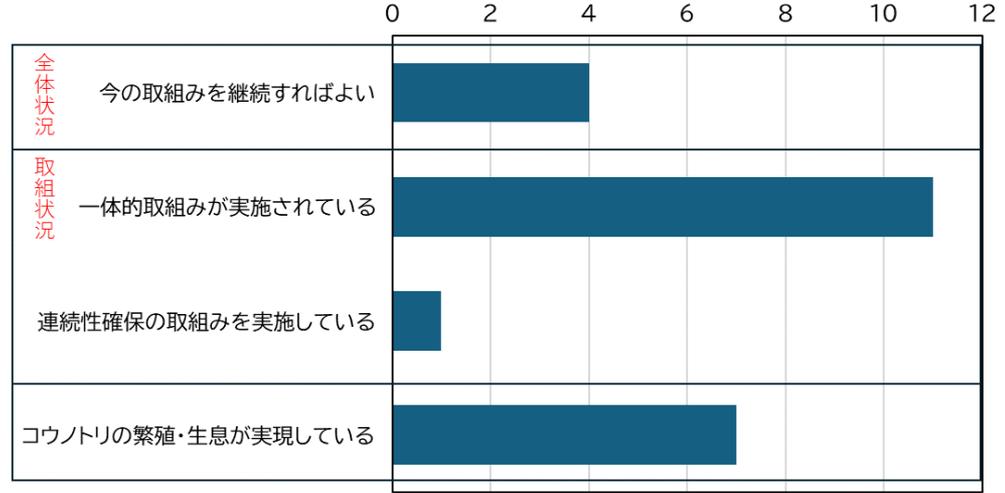
# 4-2-2 【中期目標Ⅱ】 流域が一体となった湿地環境等の改善・創出

## (2) 評価理由

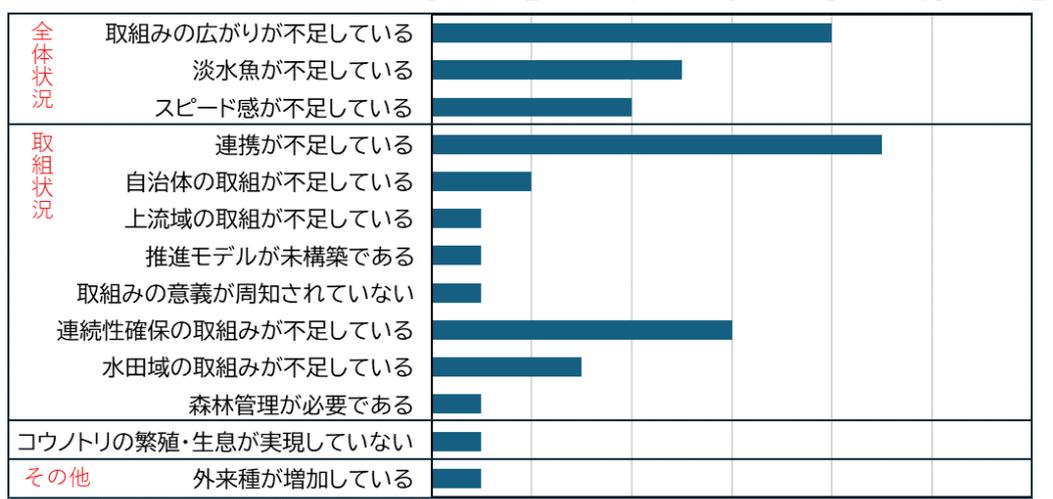
\* 記述回答数: 50主体(76主体中)

- 目標の全体的な状況については、「**取組を継続すれば良い**」という意見もある一方で、**広がり・量・スピード感のそれぞれについて「不足」とする意見の方が4倍以上**となっている。評価Aが0%で、B・C・Dがそれぞれ20%程度となっている評価結果に対応している。
- 目標における「**流域の一体的な取組**」に関わる評価理由としては、「**実施されている**」という意見もある一方で、**不足しているという意見の方が多い**。特に「**連携不足**」を指摘する意見が多いほか、**具体的な取組内容としては「連続性の取組」の不足を挙げている意見が多い**。
- 目標における「**湿地整備**」に関わる評価理由としては、「**コウノトリの繁殖・生息**」が認められるという意見が多く、**繁殖が確認された結果がプラス評価に寄与している**。
- 目標には直接関係しない意見としては「**外来種**」が障害となっていることが挙げられている。

### <プラスの評価理由>



### <マイナスの評価理由>

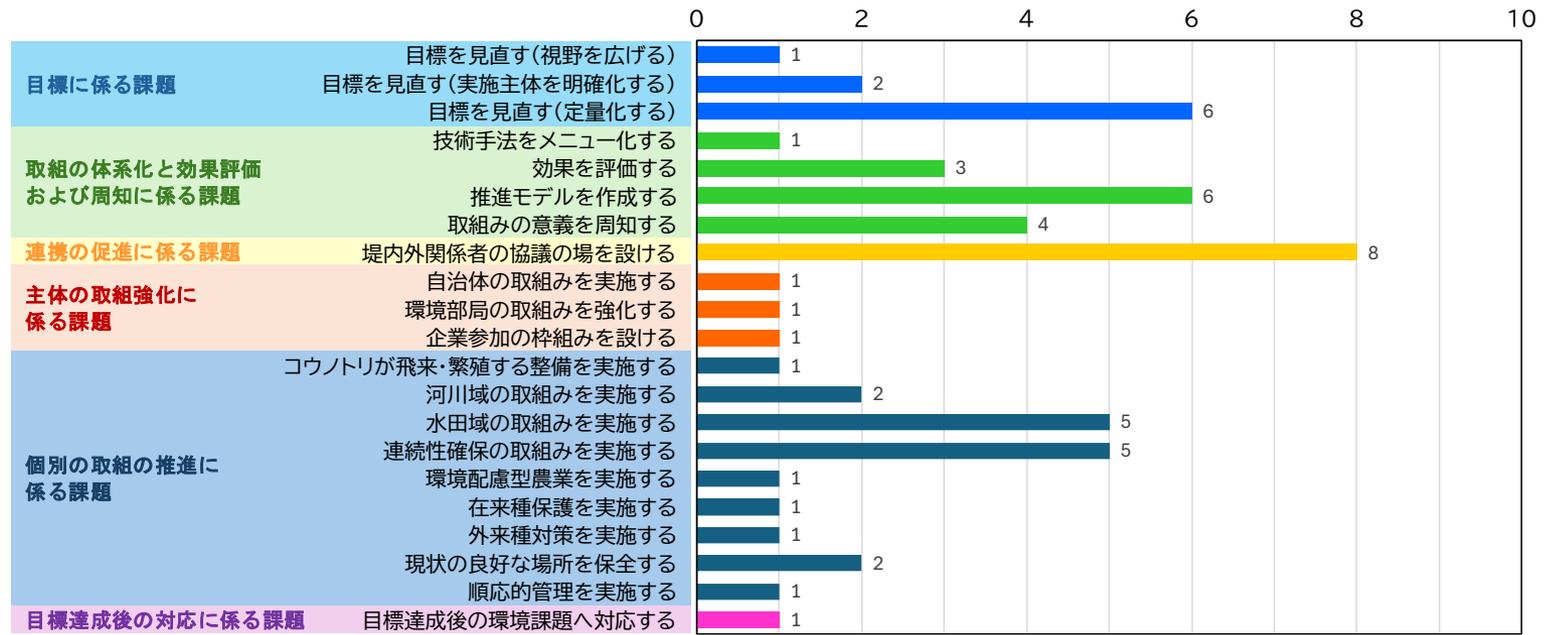


# 4-2-2 【中期目標Ⅱ】 流域が一体となった湿地環境等の改善・創出

## (3) 中期目標達成または今後の展開に向けた課題・提案 \*記述回答数40主体(76主体中)

- 目標の見直しを挙げる意見が多い。特に、主体の明確化や目標の定量化を挙げる意見が多い。
- 取組の体系化と効果評価および周知を挙げる意見が多い。
- 連携の促進を挙げる意見が多い。関東エコ・ネットや各エリア協議会が設置されてはいるが、実際の取組を進める上で円滑に進んでいない部分があることが推測され、これらへの対応が必要と考えられる。
- 主体の取組の強化や個別の取組の推進を挙げる意見が、個々には少数ではあるが全体としては多く存在する。「水田域の取組」や「連続性確保の取組」などは比較的多数の意見がある。
- 目標達成後に新たな課題が発生することへの備えの必要性を指摘する意見もある。

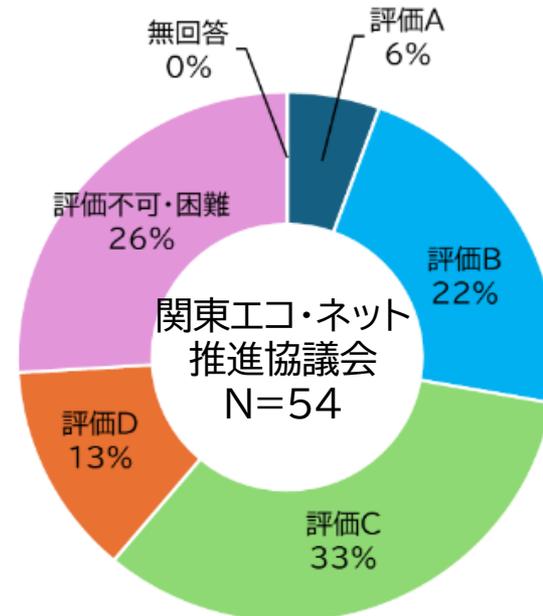
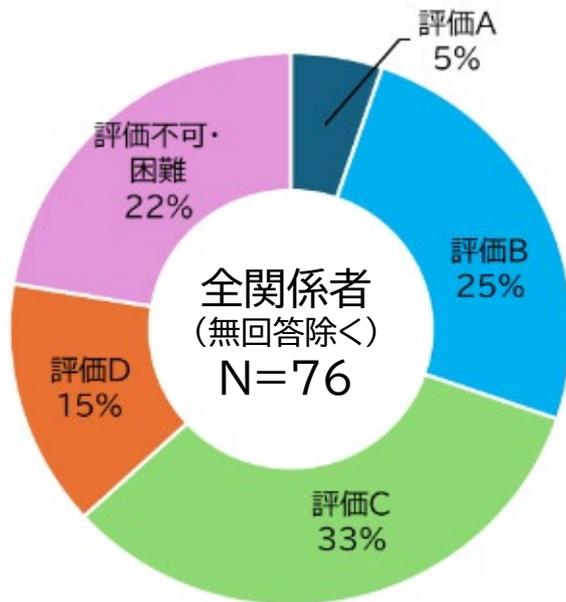
今後の取組み課題



## 4-2-3 【中期目標Ⅲ】 様々な主体の賑わいによる魅力ある人・地域づくり

### (1) 評価結果

- 関東エコ・ネットの直接的な関係者の評価、およびエリア協議会を含む全関係者の評価ともに、ほぼ同様の結果となっており、「評価A」との回答は約5%、「評価B」と「評価C」をあわせると約50%、「評価D」は約15%である。
- 到達点が不明あるいは取り組みかたに差がある等の理由で「評価不可・困難」とする人は全体の約4分の1を占め、関東広域の現状が関係者自体に十分に認識されていない状況が確認できた。
- 「評価D」とした人の多くは、地域住民からの認知度、取組の広がり、最終的な目標の明快さについて、それぞれ不十分であることを評価理由としている傾向が確認された。



A: R6(2024)年度末時点において、中期目標を達成している

B: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、現状の取組を継続すれば、2030年までに達成可能

C: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、取組内容や進め方を見直せば、2030年までに達成可能

D: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成しておらず、2030年までの達成は困難

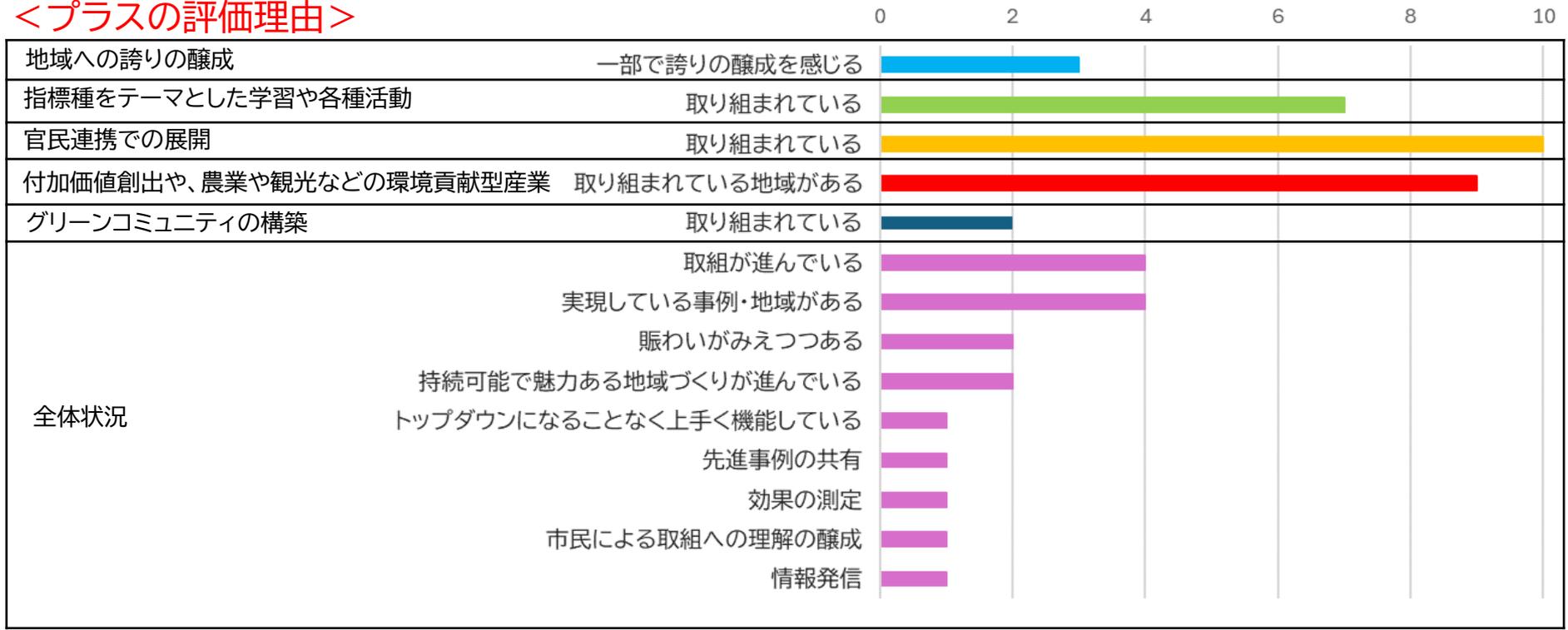
# 4-2-3 【中期目標Ⅲ】 様々な主体の賑わいによる魅力ある人・地域づくり

## (2) 評価理由

\* 記述回答数: 59主体 (76主体中)

- 目標の5つの具体イメージについては、取組が始まったばかりであるとして進捗状況を「不足」とする意見がある一方で、始まっていることを評価する意見の方が多く見られた。
- 目標の全体的な状況については、取組が進んでいることを評価する意見がある一方で、取組内容や取組主体が不十分、目標や評価の設定が不明確、結果として目標とする状況に至っていないと指摘する意見が多く見られた。

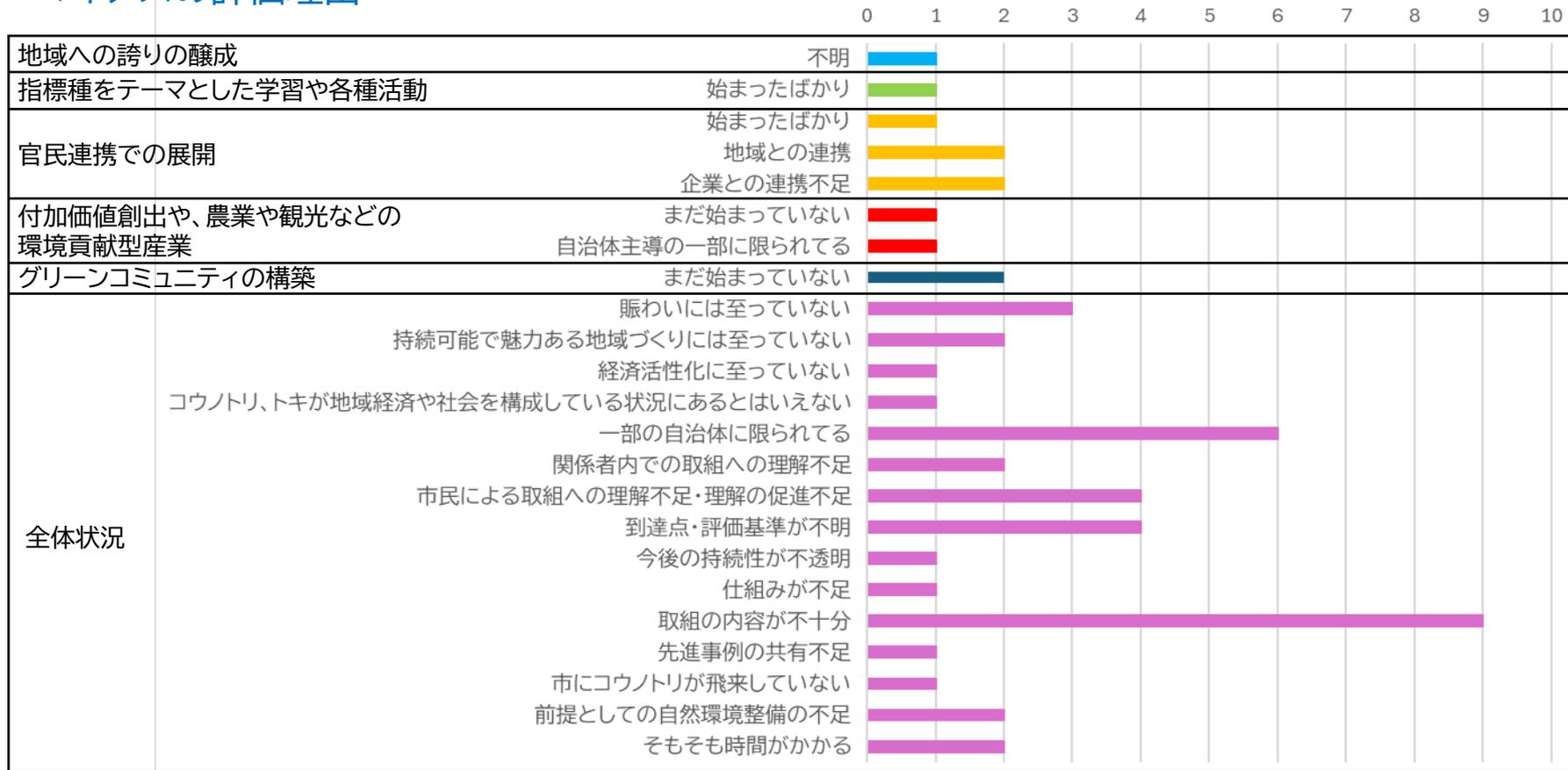
### <プラスの評価理由>



# 4-2-3 【中期目標Ⅲ】 様々な主体の賑わいによる魅力ある人・地域づくり

## (2) 評価理由 \*記述回答数:59主体(76主体中)

### <マイナスの評価理由>

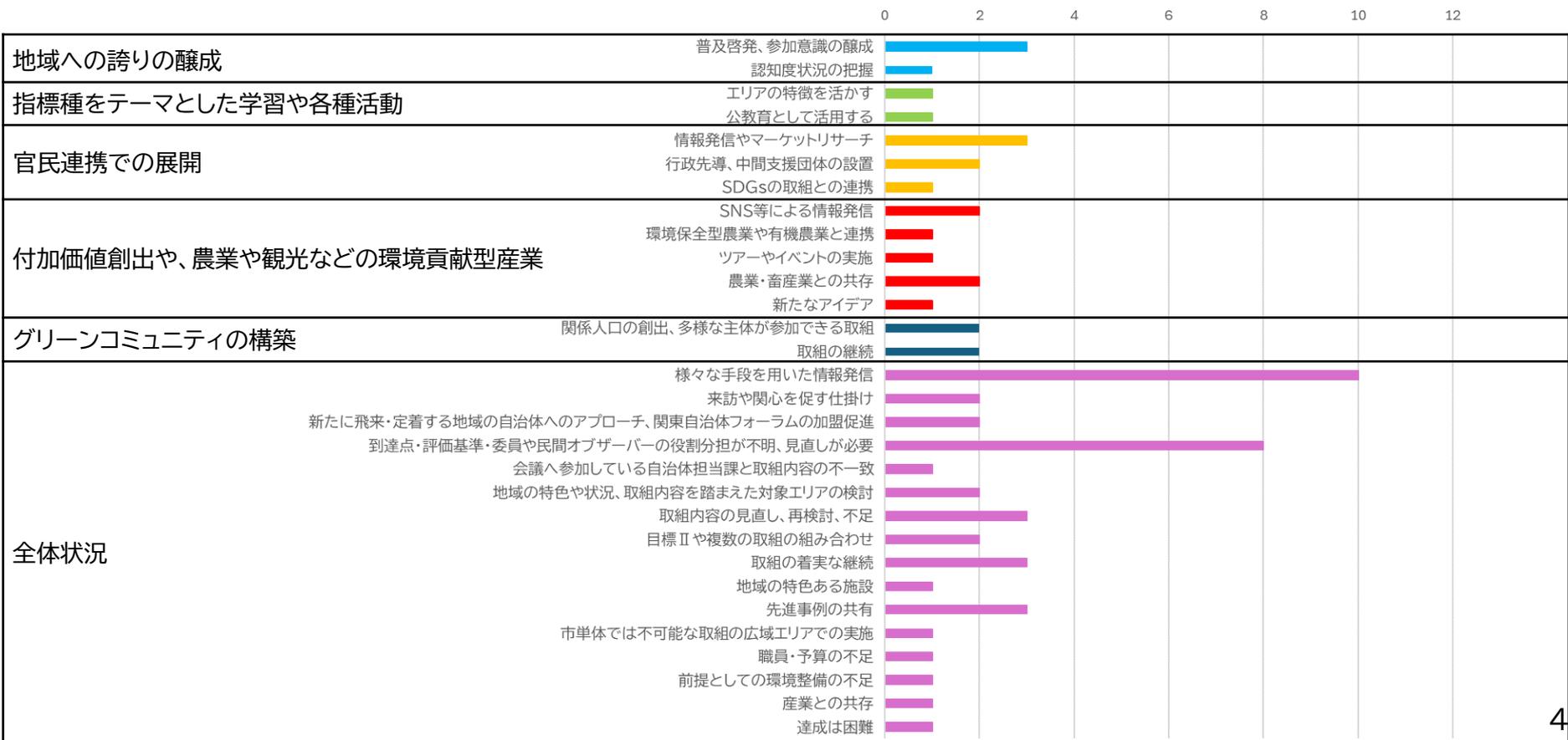


# 4-2-3 【中期目標Ⅲ】 様々な主体の賑わいによる魅力ある人・地域づくり

## (3) 中期目標達成または今後の展開に向けた課題・提案 \*記述回答数:46主体(76主体中)

- 目標の5つの具体イメージについては、具体的な取組の提案がみられ、農業等の産業と取組との共存に関する課題も挙げられた。
- 目標の全体的な状況については、SNS等を利用した情報発信が必要であるとする意見が最も多く、次いで、目標や評価、委員・民間オブザーバーの役割の設定の見直しが求められた。また、取組内容や取組みかたに関する見直しを課題とする意見もみられている。

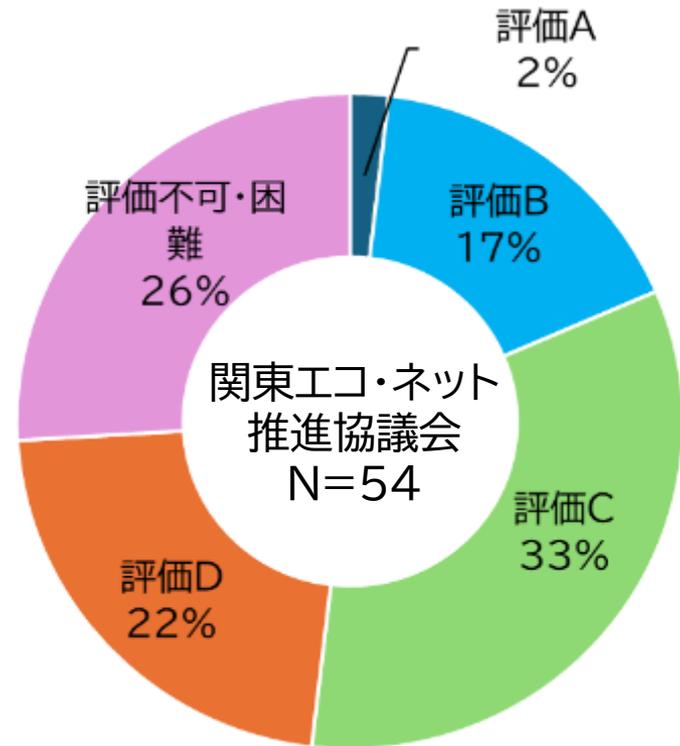
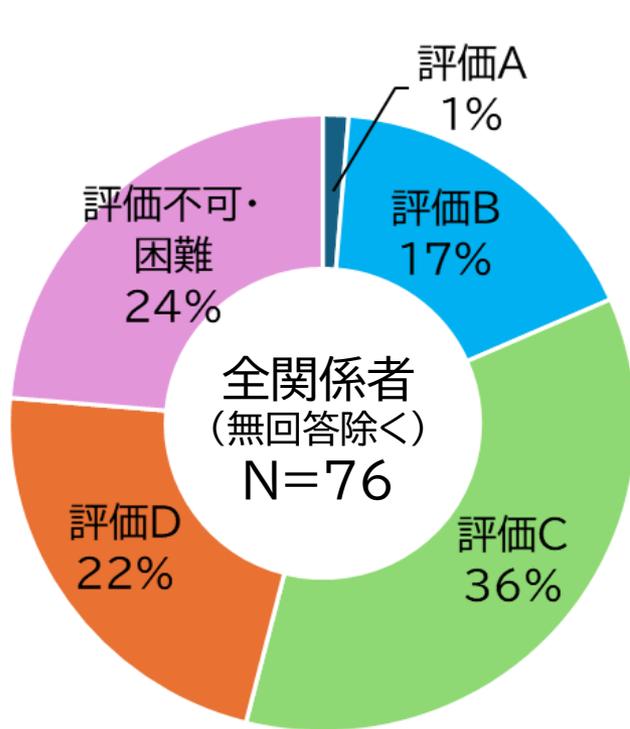
今後の取組み課題



## 4-2-4 中期目標Ⅳ.個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成

### (1) 評価結果

- 関東エコ・ネットの直接的な関係者とエリア協議会を含む全関係者の評価は、ほぼ同様の評価結果となっており、「評価C」の回答が最も多かった。
- 中期目標Ⅰ～Ⅲと異なり、直接議論する専門部会が無いいためか、「評価不可・困難」との回答が次に多かった。



A: R6(2024)年度末時点において、中期目標を達成している

B: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、現状の取組を継続すれば、2030年までに達成可能

C: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成していないが、取組内容や進め方を見直せば、2030年までに達成可能

D: R6(2024)年度末時点において、中期目標は達成しておらず、2030年までの達成は困難

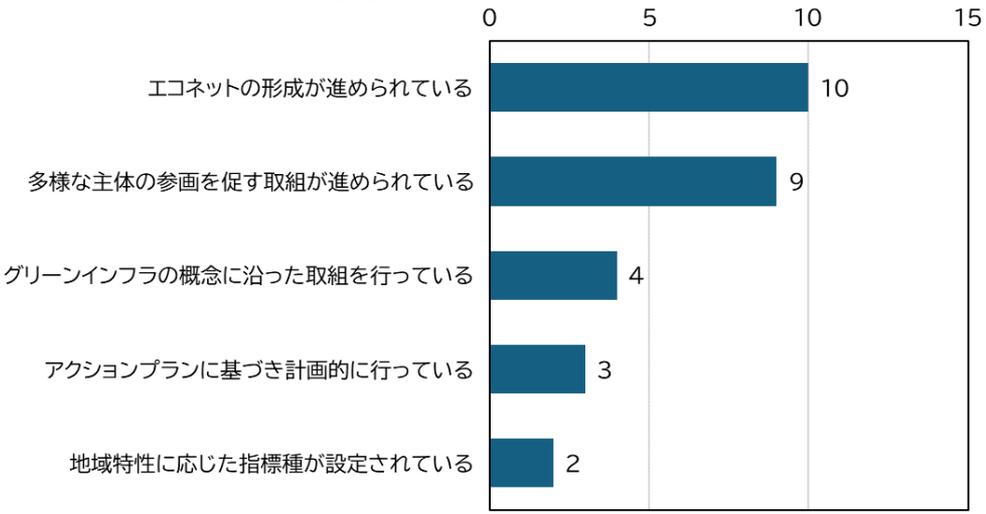
# 4-2-4 中期目標Ⅳ.個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成

## (2) 評価理由

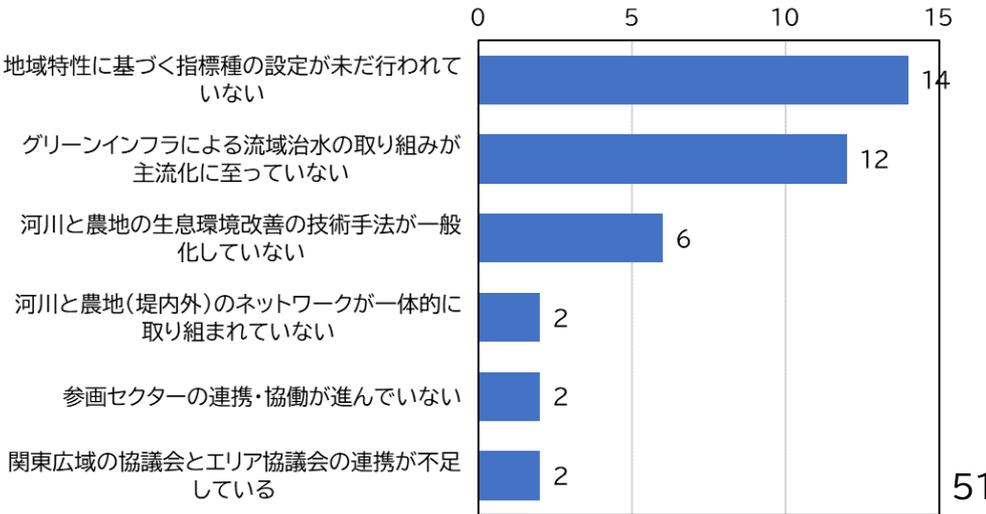
\* 記述回答数:56主体(76主体中)

- プラスの評価理由としては、「エコネットの取組が進められている」が最も多く、次いで「多様な主体の参画を促す取組が進められている」もほぼ同数で挙げられている。
- マイナスの評価理由では、「地域特性に基づく指標種の設定が未だ行われていない」が最も多く、「グリーンインフラによる流域治水の取組が主流化に至っていない」が次いで多かった。
- なお、プラスの評価理由を挙げる回答よりも、マイナスの評価理由を挙げる回答の方が多く、エコネットの取組が多様な主体の参画を伴って進められているが、内容面で、グリーンインフラによる流域治水の主流化や、地域特性に基づく指標種を設定し、個性豊かなエコネットの形成など、更に取組を深化させていく必要があるものと考えられる。

### <プラスの評価理由>



### <マイナスの評価理由>



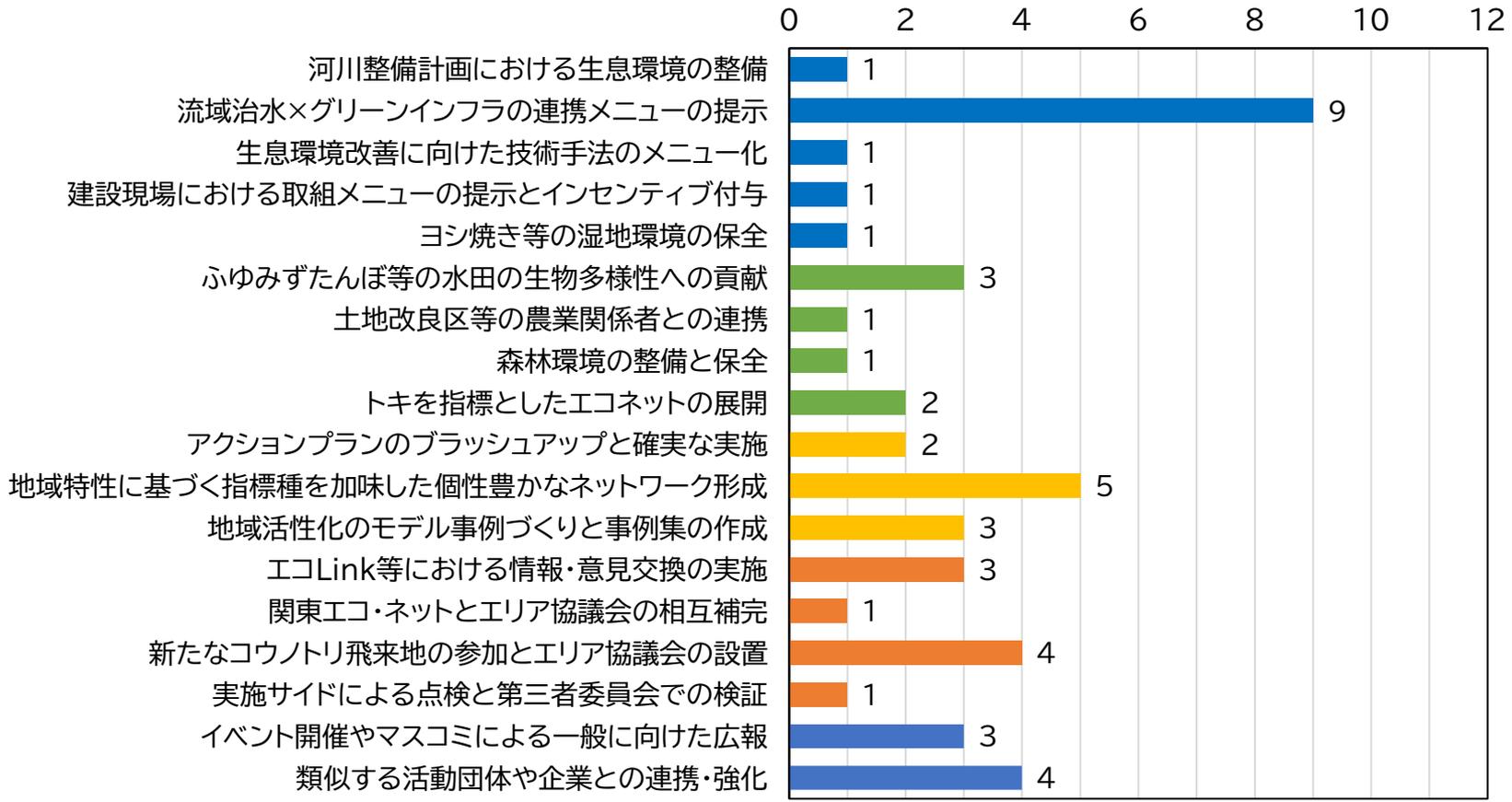
# 4-2-4 中期目標Ⅳ.個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成

## (3) 中期目標達成または今後の展開に向けた課題・提案

\*記述回答数:44主体(76主体中)

- 「流域治水×グリーンインフラの連携メニューの提示」を挙げる最も多かった。河川を基軸とする生態系ネットワークを次に進める上で重視すべき点と考えられる。
- 「地域特性に基づく指標種を加味した個性豊かなネットワークの形成」が次に多く、「新たなコウノトリ飛来地の参加とエリア協議会の設置」、「類似する活動団体や企業との連携・強化」が3番目に多かった。

今後の課題・提案



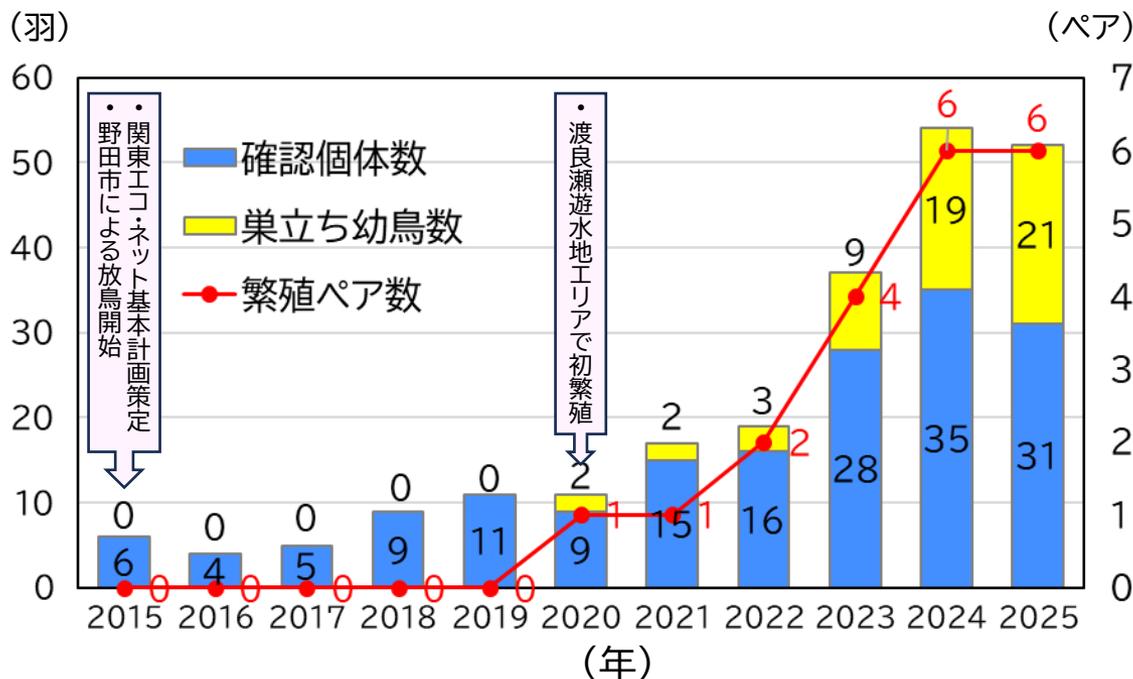
## 4-3 コウノトリの定着からみた取組の寄与について

関東エコ・ネットにおいて「たね地づくり」「定着地づくり」「人・地域づくり」の取組を進めてきた成果(アウトカム)の一つとして、広域指標種コウノトリの定着(コウノトリ溜まりの形成)が利根川流域で進み、さらに近年ではコウノトリ溜まりから派生的に広がった場所での繁殖や定着が進んでいます。

取組のシンボルであるコウノトリの動向を追うことで、関東一円に生態系ネットワークの形成・自然環境のグリーンインフラとしての活用が広がってきていることが確認できます。これらの関係を以下に記して紹介します。

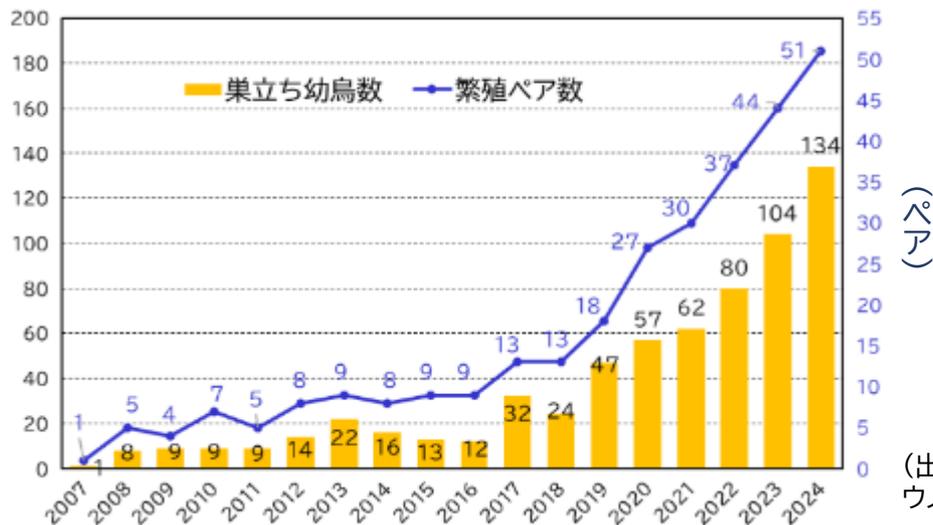
# 【取組進捗指標①-1】コウノトリの飛来確認数の動向

関東エコ・ネット基本計画の策定および野田市の放鳥開始から5年後に、初繁殖が確認され、翌年から関東地域への飛来個体数と繁殖ペア数の増加に伴って増加、特に2023年からは急増傾向にある。



※各年1月～12月の集計。2025年は7月末時点。  
((公財)日本生態系協会作成)

## <参考> 全国の繁殖ペア数・巣立ち幼鳥数の推移



※確認個体数:「コウノトリ市民科学」・野田市・波崎愛鳥会・(公財)日本生態系協会調べの目撃データによって、関東地域(1都6県)にいたことが確認された個体数

(出典:「足環カタログ」ほか、兵庫県立コウノトリの郷公園資料より作成)

# 「コウノトリ溜まり」の形成状況

- 2020年頃には、放鳥を実施している千葉県野田市周辺、関東地域で初繁殖した渡良瀬遊水地周辺、および利根川下流域の3エリアに、複数の個体が飛来・滞在を繰り返す「コウノトリ溜まり」の形成が確認された。
- 以降、「コウノトリ溜まり」を中心に複数の個体が行き来を繰り返す中でペアが形成され、「コウノトリ溜まり」3エリアにおいて、繁殖が確認される。
- 2023年頃からは、3エリアの「コウノトリ溜まり」を中心に周辺に飛来地や繁殖地が広がる傾向が確認されている。

図 野田市放鳥個体の飛来状況とコウノトリ溜まり

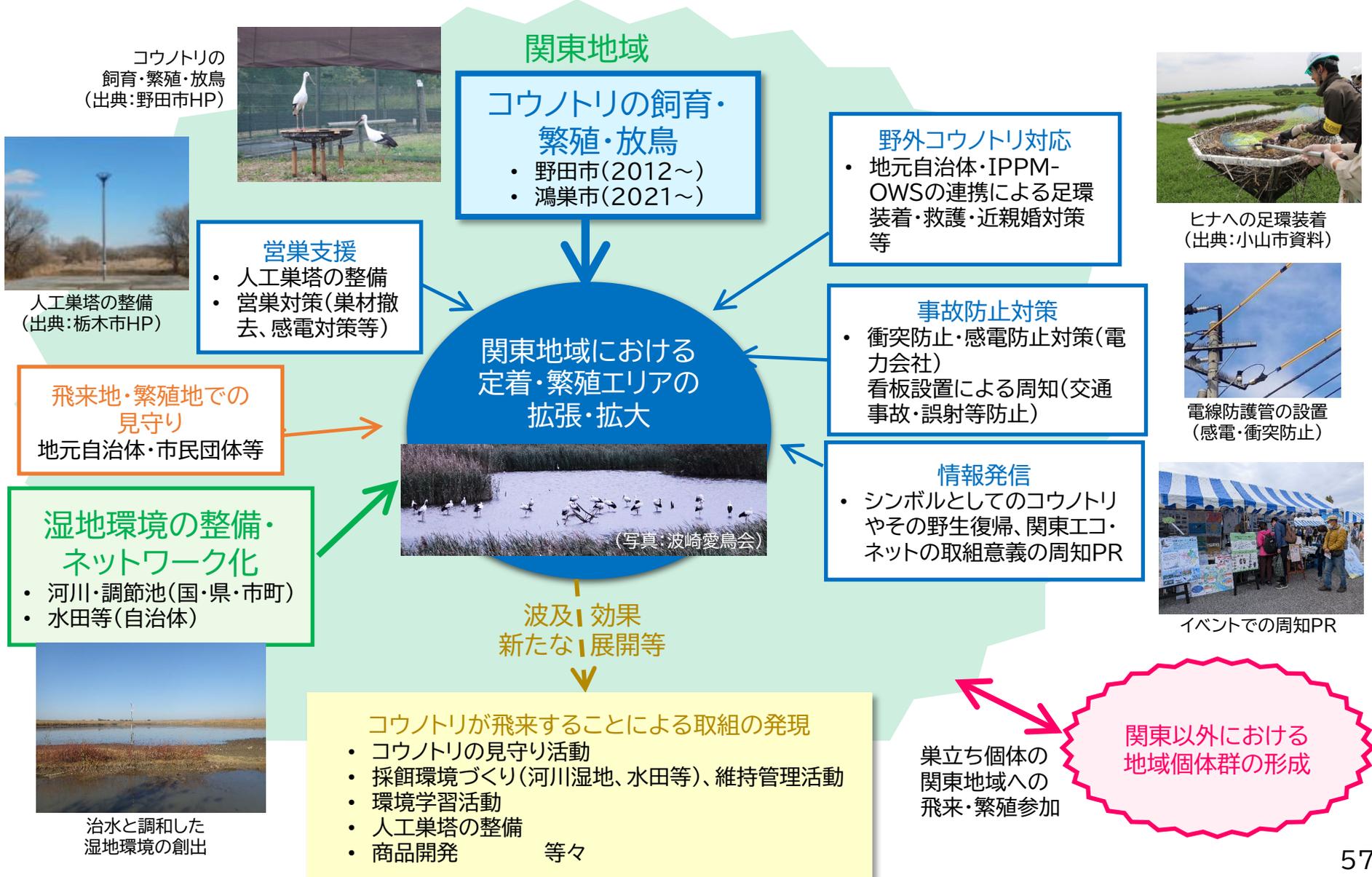
(野田市提供2015～2024年GPSデータより作成)





# シンボル「コウノトリ」の関東地域定着に寄与した取組との関係(イメージ)

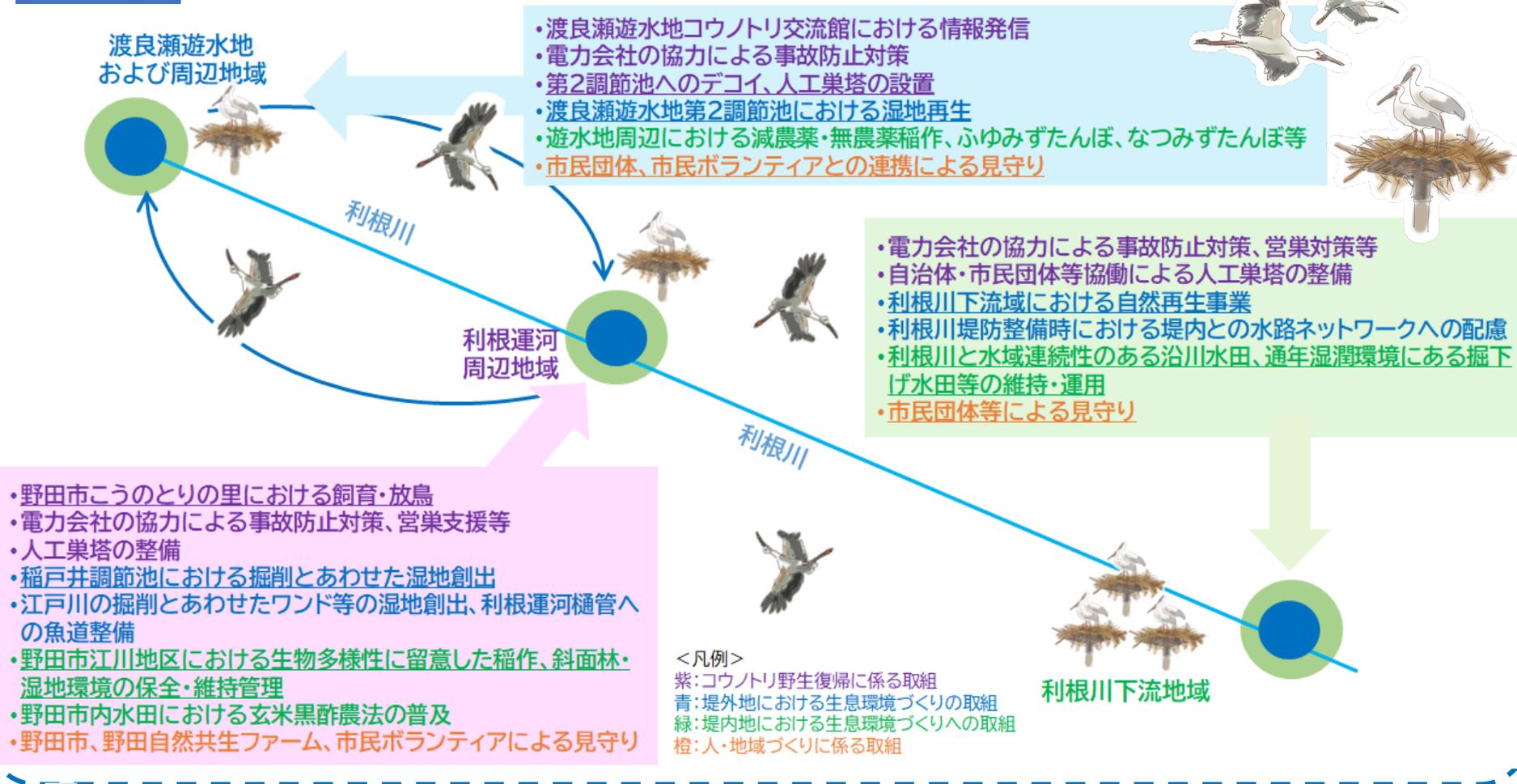
関東エコ・ネットの多様な取組による成果(アウトカム)のひとつである“シンボルであるコウノトリの関東地域個体群形成”に直接的に寄与したと考えられる取組との関わりを図のように整理を行った。



# 関東広域での多様な主体による連携・取組の推進が コウノトリ定着の進行・拡大という成果(アウトカム)として実現

2020～  
2023年度頃

利根川沿いに形成された3つの「コウノトリ溜まり」で繁殖が実現、「コウノトリ溜まり」間で個体交流が活発化



2023年度  
頃～

- 各「コウノトリ溜まり」の周辺でも頻繁に飛来・滞在が確認されるエリアが増加
- 利根川下流域から霞ヶ浦・涸沼周辺へとコウノトリの繁殖・定着エリアが拡大
- コウノトリ飛来をきっかけに各地で取組意識が芽生える(栃木県市貝町・茨城県水戸市等)

## <参考> コウノトリ関東地域個体群形成の経緯

全国

IPPM-OWS  
設立

野外コウノトリ  
100羽到達

野外コウノトリ  
200羽到達

野外コウノトリ  
300羽到達

野外コウノトリ  
400羽到達

野外コウノトリ  
500羽到達

H24 (2012) H25 (2013) H27 (2015) H28 (2016) . . . R1 (2019) R2 (2020) R3 (2021) R4 (2022) R5 (2023) R6 (2024) R7 (2025)

関東地域

野田市でこののりの里を整備、東京都多摩動物公園から譲渡のペア飼育開始

野田市飼育ペアが繁殖(以降、25年まで毎年繁殖)

野田市が試験放鳥を開始(関東地域で初放鳥)

「野田市コウノトリボランティアの会」発足

毎年放鳥が行われ、一部放鳥個体が関東に長期滞在するようになる

全国に飛散していた放鳥個体も関東に戻りだし、利根川沿い3エリアに「コウノトリ溜まり」が形成

「渡良瀬遊水地コウノトリ定着推進協議会」設立  
渡良瀬遊水地コウノトリ交流館オープン  
渡良瀬遊水地(小山市)で関東初の野外繁殖実現

野外1ペアから2羽が巣立つ  
鴻巣市でコウノトリ野生復帰センターを整備、埼玉県こども動物自然公園から譲渡のペア飼育開始

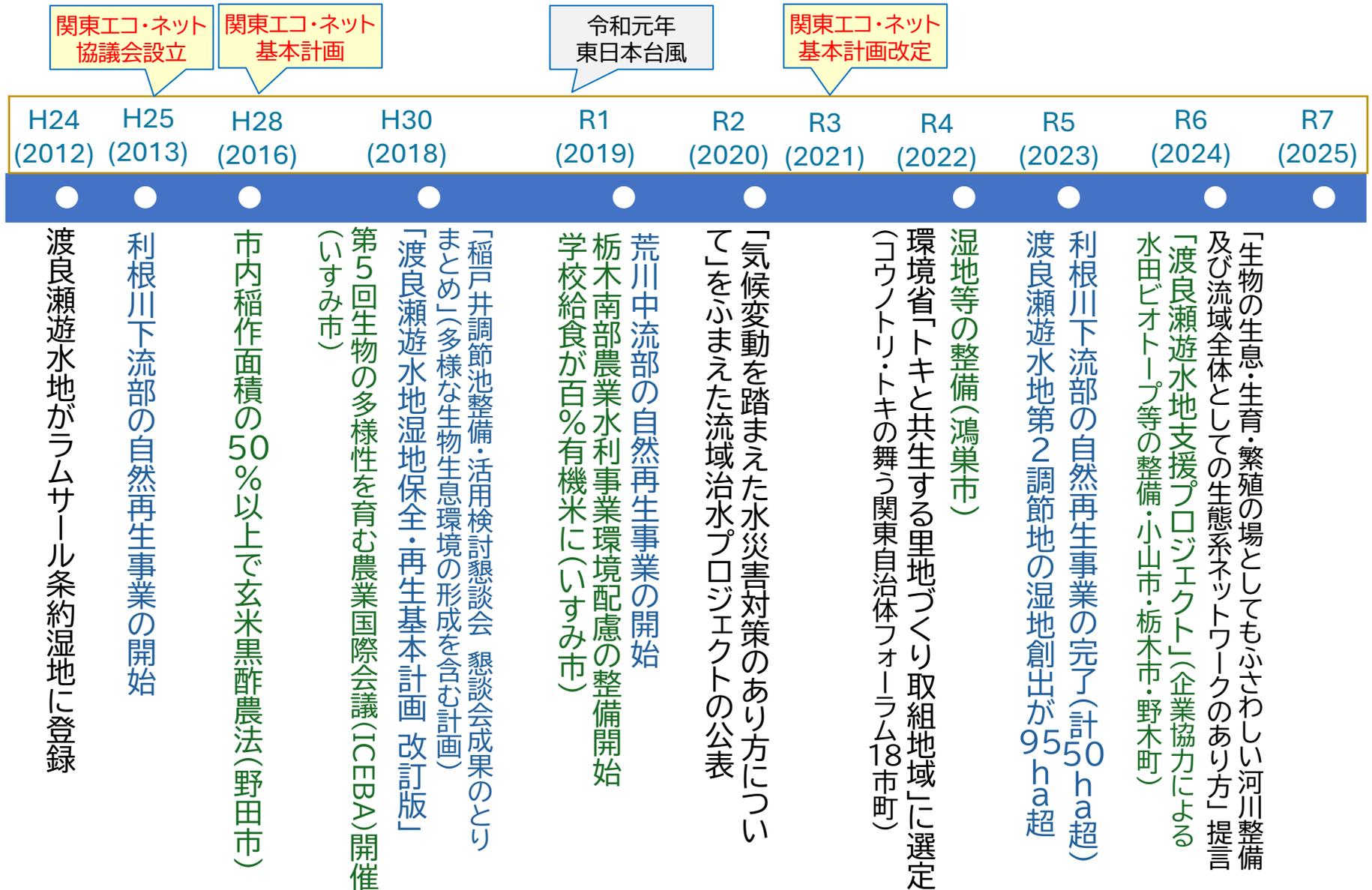
「渡良瀬遊水地コウノトリ見守りボランティア」発足  
野外2ペアから3羽が巣立つ(新規1ペア)

年間確認個体数30羽を超える  
野外4ペアから9羽が巣立つ(新規3ペア)

年間確認個体数50羽を超える  
野外6ペアから19羽が巣立つ(新規2ペア)

野外6ペアから21羽が巣立つ(新規2ペア)

# <参考> 関東地域の河川・水田等における湿地保全・再生に係る経緯





## 5. 2030年に向けた取組課題と方針(案)

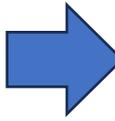
# 5-1 【中期目標 I】 コウノトリの個体群形成と個体群間の交流

**中期目標 I**

コウノトリの関東地域個体群の形成が進むとともに、コウノトリをシンボルとする国内各流域のエコネット事業  
地間から東アジアに至る個体群間の交流がはじまっている。

**今後に向けた取組課題**

- 関東地域個体群形成に寄与してきた各主体による取組を継続しつつ、個体数急増に対応するための関東地域の関係機関間の更なる連携強化が必要。
- 将来的な希少種から普通種への移行に向けた、あるべき姿や考え方の明確化、共有が必要。
- 関東エコ・ネットおよび各主体による情報発信によって一部で浸透しつつあるコウノトリや関東エコ・ネットへの認知の更なる向上が必要。
- 本州におけるトキ放鳥や佐渡での野生復帰実施状況、本州でのトキ飛来状況など、トキに関する認知度、理解の普及が必要。



**2030年に向けた取組方針(案)**

I-(1) IPPM-OWSや関東自治体フォーラム、関東エコ・ネットそれぞれにおける取組を継続しつつ、各機関間における情報共有の拡充や役割分担の明確化、関東地域における自立的な体制づくりなど、コウノトリの域内保全に係る連携・協働に係る体制拡充を図る。

I-(2) 野生動物であるコウノトリへの人為的な関りのあり方や、共生のあるべき姿の明確化に向けた関係機関間での検討、共有を進める。

I-(3) 関東エコ・ネット関係機関・施設・企業・団体等との多角的な連携・協働による、インターネット・マスコミ・イベント等を通じたコウノトリ・トキや関東エコ・ネットに関する情報発信の促進、一般市民の認知向上を図る。

I-(4) トキの野生復帰実施状況に係る情報の共有、コウノトリに係る実績・成果のトキへの応用に向けた検討を推進する。

## 5-2 【中期目標Ⅱ】流域が一体となった湿地環境等の改善・創出

### 中期目標Ⅱ

コウノトリやトキの関東地域個体群が自活して繁殖・生息が可能となる湿地環境等の改善や創出が、堤外・堤内における関連主体の役割分担に応じ流域一体で進められており、河川と水田がつながることで淡水魚があふれている。

#### 今後に向けた取組課題

- 治水事業と一体的な湿地整備と堤内地の各種事業の連携した取組の広域展開。
- 水田域の取組や連続性確保の取組のさらなる促進。

- 整備や生物に関する目標とそのための取組として各主体が果たす役割の明確化、これを実現するための有効な連携の促進。

- 広域での取組を推進するための事業連携モデルの構築の促進。

#### 2030年に向けた取組方針(案)

- Ⅱ-(1) 先導する取組となる治水と一体的な環境創出について、エコネット向上に寄与する方法を具体化する。
- Ⅱ-(2) 河川における取組と相乗効果をもたらす堤内の水田域等の取組や連続性確保の取組について、実施場所・時期を踏まえて具体化する。

- Ⅱ-(3) 連携した取組を想定するエリアにおいて、想定する指標生物種や保全・創出する環境のタイプと面積、それぞれを実施する主体や期間などを明確化する。
- Ⅱ-(4) 上記の内容について、実施者間で情報を共有できる「場」を設ける。(※現状の組織体は窓口部署と実際の実施主体が一致していない場合があり、情報共有と連携が進まない要因になっていると推測される)

- Ⅱ-(5) 事業連携による成果が認められる事例から、他地域で適用できる可能性が高い部分を抽出し、体系化(最低限の共通事項としての「標準モデル」と参考事例の組み合わせによる整理)していく。

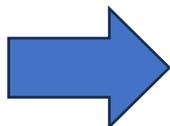
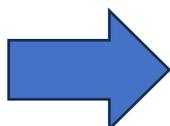
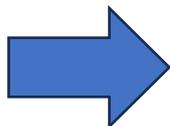
## 5-3 【中期目標Ⅲ】多様な主体の賑わいによる魅力的な人・地域づくり

### 中期目標Ⅲ

コウノトリ・トキと共にくらせる地域を誇りとし、地域経済及び社会を構成する様々な主体の賑わいによる、持続可能で魅力ある地域づくりが進められている。

#### 今後に向けた取組課題

- エコ・ネットの取組が地域づくりに寄与していることについて、関東エコ・ネット関係者を含む地域住民の理解醸成。
- 一般的な環境学習だけでなく、エコネットをテーマとした学習のさらなる推進。
- 官民連携での展開に向けた、情報発信やマーケットリサーチ、中間支援の仕組みの構築。



#### 2030年に向けた取組方針(案)

- Ⅲ-(1) 情報発信の対象にあわせて、より効果的な普及啓発に留意した、情報発信の方法を検討する。また、関東エコ・ネット関係者間での情報共有の方法を工夫し、関係者自身の理解醸成を促す。
- Ⅲ-(2) エコ・ネット等の内容を学習するために体系化した地域学習プログラムを周知・普及し、各関係施設等で地域学習を推進を促す。
- Ⅲ-(3) 市町村や民間団体等の関東エコ・ネット取組主体と企業との連携等を促す中間支援(ハブ)としての仕組みづくりや、参加企業数を効果的に増やすためのアプローチ方法を検討する。

## 5-3 【中期目標Ⅲ】多様な主体の賑わいによる魅力的な人・地域づくり

### 中期目標Ⅲ

コウノトリ・トキと共にくらせる地域を誇りとし、地域経済及び社会を構成する様々な主体の賑わいによる、持続可能で魅力ある地域づくりが進められている。

今後に向けた取組課題	2030年に向けた取組方針(案)
<ul style="list-style-type: none"> <li>コウノトリ・トキをシンボルとした付加価値創出や、農業・観光等の環境貢献型産業や地域還元方策の<u>広域展開</u>。</li> </ul>	<p>Ⅲ-(4) 農業・観光等の<u>関係者によるプログラムへの着手や取組の自立・継続</u>が推進されるよう、事務局の取組内容や進め方については、実施者の意見や意向に留意するほか、個々のプログラムへの課題も含め、<u>実施者間で情報を共有できる「場」</u>を設ける。また、活動資金の獲得等を視野に入れた、市町村や民間団体等の関東エコ・ネット取組主体と企業との連携等を促す<u>中間支援(ハブ)としての仕組み</u>をつくる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンコミュニティの構築につながる、<u>関係人口の創出</u>。</li> <li>グリーンコミュニティを<u>支援する取組</u>の推進。</li> </ul>	<p>Ⅲ-(5) 関東エコ・ネットの<u>取組や拡がりの見える化</u>を検討する。 Ⅲ-(6) 地域を支援する<u>中間支援(ハブ)としての仕組み</u>をつくる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li><u>目標や評価基準</u>、委員や民間オプザーバーの<u>役割の明確化</u>。</li> </ul>	<p>Ⅲ-(7) プログラムの再編に伴い、評価基準や主体ごとの役割等を明確にした<u>ガイドライン(案)</u>を作成・運用する。</p>

# 5-4 【中期目標Ⅳ】個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成

**中期目標Ⅳ**

グリーンインフラの概念による流域治水の取組が主流化し、コウノトリ・トキの他にも関東各エリアの地域特性に基づく指標種を加味した、個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成が促進されている。

